

2017 年度 関西学院千里国際中等部・高等部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として、大学以外の諸学校においても各学校が互いに連携を取りながら整合性のとれた学校評価を実施する制度を構築しています。2010 年度から関西学院千里国際中等部・高等部（SIS）もこれに参加し、2017 年度は、昨年度に引き続き「学校生活・学習」「生徒活動・国際交流（Two Schools Together：TST）」「教育環境整備（テクノロジー）」「キャリア教育（進路指導）」を設定しました。

「学校生活・学習」では、以前から SIS の特徴的な国際理解教育や授業選択制度、そして指定 3 年目となるスーパーグローバルハイスクール（SGH）の取組について意見を聴取しました。

「教育環境整備（テクノロジー）」では、iPad を高等部生徒全員に貸与し、卒業まで自らの責任で保管・使用するといった取組を昨年度末で終了し、今年度から開始しました BYOD（Bring Your Own Device：生徒個々人が自己所有の情報端末を学校に持参する）についての意見を聴取し分析を行いました。6 年前には、全国でも先進的な ICT 環境であった SIS もそのアドバンテージが少なくなっており、今後の展開について貴重な意見聴取をもとに、PDCA サイクルのさらなる高みをめざします。

また、SIS における教育の「核」である、「生徒が自らの学びのなかで進路を選択する」ことを踏まえ、海外などを含めた「多彩な進路」の確保と円滑な関西学院大学への内部進学が両立できるように心を砕いてきました。「キャリア教育（進路指導）」にて、昨年度に引き続き、それぞれの評価項目について生徒・保護者・教員にアンケートを行い、それぞれの立場からの意見を聴取しました。進路に関する情報提供につきまして、生徒・保護者と教員間で認識の相違があったことは、SIS といたしましても反省すべき点が明らかになり、今後の改善に向けての足掛かりとすることができました。

アンケートは、過去数年来と同様にネットワーク上の設問に各自が答える形式で実施し、本年から回答内容の匿名性を確保したうえで、回答・未回答の人物特定を可能とする試みを行いました。この試みについての周知が不足したためか、アンケートの回収率が、大幅に低下しました。次年度以降、匿名性確保等の周知を徹底し回収率回復をめざします。

アンケート回収率（％ カッコ内は前年度）

中等部生徒	高等部生徒	保護者	教員
93.6 (97.9)	64.9 (87.6)	53.6 (73.6)	55.4 (89.4)

回答いただきましたアンケートの結果を集計、分析したものを参考に自己点検・評価をまとめました。なお、「自己評価」は、アンケートにおいて肯定的回答の比率をもとに行い、自由記述欄の記述も一部勘案しました。基準は以下のとおりです。

アンケート肯定的回答の比率

80%超：A+ 60%～79%：A 40%～59%：B 39%以下：C

また、関西学院が幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを生かし、接続する学校の教職員の方々に、専門的な視点からのご意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しており、今年度は関西学院大学教育学部教授、関西学院中学部・高等部の教員、評価情報分析室副室長、保護者代表に「第三者評価／学校関係者評価」をお願いしました。

皆様のご意見を真摯に受け止め、より良い学校をめざして努力してまいります。ご協力ありがとうございました。

2018年3月9日

関西学院千里国際中等部・高等部

校長 井藤眞由美

学校評価

教育理念・使命・目標

二つの学校* 一つのミッション (Two Schools, One Mission)

私たちのミッションは、生徒たちを、「知識と思いやりを持ち、創造力を駆使して世界に貢献する個人 (“Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community”）」に育てることである。

生徒たちは強い自我を育み、自己の文化、他の文化を理解し、経験の多様性を楽しめる人物へと成長する。世界におけるお互いのかかわりを認識し、多文化環境に対応できる、包容力があり創造性のある成人へと成長する。

生徒たちは自己責任の意識を持って教育活動に取組み、自分の能力や才能に気づき、それらを伸ばさせて学習面・人としての成長面における自分の進む道を切り開く。自らの努力で切り開く強さをもって進む。

生徒たちは健康で生きがいのある生活を尊重し、個性を大切にし、知恵と忍耐力を持って苦しいことを乗り越えていく。国際社会の一員であるという意識を広げ、人類のよりよい未来のために他者への思いやりをもったリーダーシップを発揮していく。

I. 二つの学校は一体である**

1. 私たちは、二つの学校が常の一つになろうと努力することが、生徒たちにとってとても大きな利益になると信じる。
2. 私たちは、二つの学校の緊密な関係が私たちのすべての理念を成功させるために非常に重要だと考える。

II. 考え方の交流

1. 私たちは、このキャンパスが教員や保護者、生徒たちにとって自由に教育上のことやその他の知的な考え方の交流が行われる場所であるべきだと考える。
2. 私たちは、生徒や教員、保護者たちの多様な経験を尊重し、自由な意見の交換はこの姿勢をよりよいものとすることを信じる。

III. 文化の理解

1. 私たちは、このキャンパスがホスト国である日本の文化の学習、鑑賞、理解に深くかかわるべきであると信じる。
2. 私たちは、このキャンパスが日本と近隣のアジア諸国の文化の関係、その他の世界各国の文化との関係についても同様であると信じる。
3. 私たちは、私たちのコミュニティが多様な文化によって成り立っていることから、このキャンパスでは異文化間の理解が規範とされ、研究され、尊重される場であるべきであると信じる。

IV. SOIS での学習

1. 私たちは、このキャンパスの特別な性格が、生徒たちに調和のとれた個性的で責任感のある考え方や行動のできる人材となるよう力づけるべきであり、その目的を達成するためにキャンパスでの教育内容は変化に富んだ豊かで厳しく博識なもので積極的な参加を求めるものであるべきであると信じる。
2. 私たちは、このキャンパスの主要な責任の一つは、生徒が成人になっても学び続けられるように学ぶ方法を習得させるように努めることであると信じる。

V. 共通の基盤

私たちは、このキャンパスの二つの学校が日本と外国の物の考え方や習慣、生活信条伝統の共通の基盤を示すべきであると考えます。

VI. 規範

1. 私たちは、このキャンパスの二つの学校が他の学校の規範として存在するべきであると考え
2. る。
1. 私たちは、このキャンパスの目標の一つは日本国内や海外の学校に教育の新しい考え方や実
2. 践、技術システムなどを示すことであると考え。

二つの学校*：関西学院千里国際中等部・高等部(SIS)は帰国生徒受入れを目的として設立された一条校であり、基本的に学習指導要領に従ったカリキュラム編成となっている。生徒の構成が、帰国生と一般生（日本において通常の初等教育を受けた生徒）がほぼ同数となっていることに加え、国際バカロレアに基づき主に外国人対象の教育機関である、キャンパスに併設の大阪インターナショナルスクール(OIS)との合同授業（音楽、体育、美術が英語による授業）が行われており、バイリンガルな学習環境下となっている。また、大学と同様に、生徒がほぼ自由に時間割選択を行い、授業を受講するシステムをとっており、生徒の自主性を重視した学習条件を整えている。2013年度からはOISの11、12年生と授業を共有することによって、国際バカロレアのディプロマプログラム（IBDP）を履修することができるようになった。

二つの学校は一体である**：冒頭に記載した「ミッション」達成のため、SISとOISは一体であることが、両校にとり最も重要な要素である。また、同一キャンパス（校舎）に両校が併設されていることが最大の特徴となっている。この点について、昨年度に引き続き評価項目としてとりあげ分析を行った。

2017年度の評価項目

1. 学校生活・学習（独自設定評価項目）
2. 生徒活動・国際交流（Two Schools Together：TST）（独自設定評価項目）
3. 教育環境整備（テクノロジー）（「学校評価ガイドライン（平成28年度改訂）」に例示されている項目）
4. キャリア教育（進路指導）（「学校評価ガイドライン（平成28年度改訂）」に例示されている項目）

すべて、昨年度からの継続項目。特に1.は法人合併当初からの継続項目であり、SIS教育において最も重視しているステークホルダーの満足度を確保する意味で外せない項目である。

2.は本キャンパスにおける教育理念の根幹であり、上述の「二つの学校 一つのミッション」の根幹に関わる課題である。

3.は高等部において2013年度から開始したiPadの貸与を2016年度末に終了し、2017年度から開始したBYOD(Bring Your Own Device)の成果を検証することを主眼としている。

4.は法人合併から7年を経過し、「完成年度」後の進路動向について確認を行う意味で調査項目とした。

2017年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	学校生活・学習 【生徒・保護者の学校への満足度維持】	自己評価	A
目標	1. スーパーグローバルハイスクール（SGH）3年目の総括 2. 生徒・保護者の学校への満足度維持 3. IBDP受講生の増加（3名→5名→7名）		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	1-1 SGHが3年目に入り、成果が着実に上がっている。9月に文部科学省から発表された中間評価において、6ランク中2番目の評価を受けることができた。（56項中上位23番目までに含まれる。）生徒たちの頑張りと、教員および担当者		

の努力が結実した。次年度も努力を継続する。

- 1-2 SGHに関するアンケート結果でも、肯定的な回答がある程度優勢ではあるが、「全くそう思わない」としている生徒が相当数存在し、昨年度と同様の傾向を示している。次年度に向けて生徒たちへの SGH 理解・参画への動きを強化する必要がある。
- 2-1 保護者への質問「学費に見合う教育を受けていると感じる」について学年別にクロス集計を行った結果、高等部が中等部より肯定的な傾向がでた。学年進行とともに満足度が上昇しているようである。また、アンケートを早い時期に回答した保護者に肯定的でない傾向が高かった。SIS の学費は 2015 年度から 3 年間 124 万円に据置かれている。S/T 比 (student/teacher 教員 1 人当たりの生徒数) の推移は以下のとおりで、大きな変化は見られない。このことから、満足度の低下の原因について、詳細な検討が必要である。

	生徒数	教員数	S/T 比
2015 年度	487	65	7.49
2016 年度	509	64	7.95
2017 年度	493	65	7.58

- 2-2 中等部生は本項目に対する肯定的な回答が高いが、高等部生の授業に対する満足度中最上位の回答が極端に少ない。教員も同様である。加えて、「生徒・卒業生や保護者の SIS に対する満足度は高いと思う」についての教員の最上位回答が少ない。
- 2-3 アンケート「学校で自分らしく過ごせている。」「本校に入学して良かった。」は以前からの満足感を引き続き示している。保護者の「入学させてよかった」も同様である。学習のみならず、学校生活への満足度もほぼ維持された。
- 3-1 2013 年度から開始した IBDP であるが、今年度受講生が 9 名となった。(目標大幅達成)
- 3-2 次年度秋学期からの IBDP 受講希望者は 8 名である。

●自由記述欄に、「盗難」に関する記述が昨年度以上に増加している。

昨年と同様に、SGH は、熱心な生徒達【以降は A 層と呼ぶ】の「頑張り」とそうではない生徒達【以降は B 層と呼ぶ】の「無関心・無気力・反発」の乖離が問題である。生徒増に伴う諸問題（教室不足、授業選択に対する不満等）も検討課題である。

今後の方策

- 1-1～2 昨年度から高等部 10・11 年生全員が「SGH 課題研究」が必修となっている。A 層へのより高度な指導と、B 層への SGH についての理解浸透指導が必要である。
- 昨年度と同様に、高等部の学年進行と共に、A 層が増加し B 層が減少している。A 層の生徒は、資質をさらに伸ばす指導を継続することが望まれる。2018 年 3 月関西学院上ヶ原キャンパスで開催される「SGH 甲子園」において、ポスターセッションに加え口頭発表にも SIS 生徒が選ばれた。このような生徒を輩出するよう、B 層に対しても、個別の理由を勘案したきめ細かい指導計画立案が策定され、指導が進んでいる。
- 2-1～4 法人の良き理解により、3 年間 SIS 学費は据え置きとなっている。学校管理職や教職員の努力により昨年度は法人合併時の学則定員以上の生徒収

	容を実現したが、本年度は合併時学則定員を 11 名割り込んだ。1 月実施の中等部一般入試の志願者が減少傾向にある。その中で、合併後最低の 63 名の志願者に対し、54 名の合格発表を行った。過去最高の合格率である。SIS と OIS の収支均衡を 2019 年度に達成するという目標に向けて SIS の管理職・教職員は、最大限の努力を行っている。しかし、この生徒数維持とキャンパスの狭隘化は二律背反である。これに対応すべく、食堂の混雑解消のための机椅子の入れ替え、屋上運動施設改修等について対応した。今後も、IT 環境整備（無線 LAN の強化、PC のリプレース）等、生徒・保護者の要望に応える努力が必要である。（「3. 教育環境整備（インフォメーションテクノロジー）」にて後述）さらに、「盗難」について保護者自由記述欄に厳しい指摘が複数件あった。生徒指導も含め、真摯に対応を検討し、解決策・予防策を実施する必要がある。 また、検討すべき課題として「落とし物・忘れ物（Lost & Found：LF）」がある。毎日数多くの LF が事務室に届く。LF 箱に保管し生徒に公開しているが、財布や携帯等以外、取りに来るケースが少ない。ものを大切にしない風潮なのか、これは「盗難」と根が同じではないかと考える。SIS の生徒の行動指針である「Five Respects*」に照らし、Respect for Others/ Respect for the Environment を中心に重ねて指導を行うことにより、両問題は解決を図る。 3-1～2 IBDP 履修者は順調に増加している。本年度は、OIS で開講していない IBDP 科目（統計学、舞台芸術等）を外機関（PAMOJA）にて受講し、卒業必要単位として認める制度を新設した。これにより、生徒の利便性が向上し、受講生の増加がさらに望まれる。反面、自由記述欄に IBDP 履修と一条校としての卒業必要単位の修得（体育、技術家庭等）の両立について負荷が高いとの記載が散見された。教務センターと協議の上、対応策を検討する。 Five Respects*：SIS/OIS では、自分の行動に責任を持ち、他者とのよい人間関係を構築するための能力が、生徒一人ひとりに備わっていると考えている。他人を大切にするという学校の理念と、生徒の自己責任に鑑み、次のような行動の指針がつけられている。Respect for Self, Respect for Others, Respect for Learning, Respect for Environment, Respect for Leadership
--	---

評価項目 【テーマ】	生徒活動・国際交流 Two Schools Together (TST) ／国際理解 【キャンパスの中心課題の再確認】	自己評価	B
目標	1. 二つの学校 一つのミッション (Two Schools, One Mission) の中心課題の再確認 2. TST 意識の生徒・保護者へのさらなる浸透 3. TST から醸成される「国際理解」のさらなる涵養		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(1. 2. 3.)-1 「OIS の教員や生徒との交流が日常的に行われている」等の設問に対し、昨年・一昨年と同様に、中等部生徒は比較的肯定的な回答が多く、高等部生徒・教員・保護者は否定的な回答の方が多かった。 (1. 2. 3.)-2 OIS との交流が行われる「課外活動の機会」については中等部・高等部とも肯定的な回答が多く、生徒にとり activity（正課授業と課外活動の垣根を越えたスポーツや音楽、模擬国連等の諸活動）を通じての OIS 生との交流が効果的に行われていることが明らかであ		

	る。 (1. 2. 3.)-3 「国際的な視野が広がるプログラムが十分用意・紹介されている」との設問では全般的に肯定的な回答が多かった。ただ、教員のほうが肯定的な回答が多く、生徒・保護者との乖離が少しある。 (1. 2. 3.)-4 保護者にとり OIS との交流は、インターナショナルフェア (IF) 毎年 11 月頃開催される SIS、OIS 両保護者会と両校生徒会共催のイベント) で多くなされているとの自由記述が多かった。 <u>本キャンパスにおける最大の特徴である TST 目標については昨年・一昨年に引き続き、非常に厳しい結果となった。TST を「お題目」として唱えるのではなく、実質的な対応が求められていることが明らかになった。</u> <u>国際理解については満足できる結果ではあるが、「おおもと」TST の問題を解決する必要がある。</u> <u>具体的な動きとして、「Two Schools Together Japanese - English Exchange」のような動きが出てきており、TST への起爆剤となることが期待される。</u>
今後の方策	(1. 2. 3.)-1～4 中等部では、OIS 生徒との共通授業が多く、自然に交流が行われている。高等部に進学すると、授業科目の選択の幅が広がり OIS 生徒との共通授業が減少することが大きな要因と考えられる。さらに中等部の生徒数増により、音楽・美術等の両校共通科目の人数バランスが SIS に偏り気味であることも、両校交流のマイナス要素となっているようである。 (1. 2. 3.)-1～4 SIS 高等部生徒の IBDP 受講生が着実に増えている。この生徒達が TST 意識の浸透に大きな役割を果たすことになる。しかし、IBDP に専念するため、SIS から OIS に転校する生徒が複数人存在する。 (1. 2. 3.)-1～4 合併当初は、SIS 生徒のみしか入寮できなかったあけぼの寮 (生徒寮) に OIS 生徒も入寮可能となった。OIS 前校長が提唱した Global Futures Program (GFP: 日本に興味を持つ中学生・高校生を外国から留学生として OIS に受け入れる制度) を OIS 現校長が積極的に推進している。このことにより両校の生徒が、あけぼの寮で「ひとつ釜の飯」を食べる生活を行うこととなり、真の国際交流が実現している。GFP のさらなる拡大をめざす。 保護者におけるインターナショナルフェアは前述のとおりであるが、All School Production (ASP 全学で実施するミュージカル) やクラブ活動 (ゴスペル、奉仕活動等) に参加している保護者は、両校間での交流が盛んである。 →TST 意識の涵養のため、保護者を諸行事やクラブ活動等に積極的参加を促すことが効果的だと考える。このことは、保護者のキャンパス・SIS・OIS への帰属意識を高める点でも成果が期待できる。また、SIS・OIS 保護者会主催のインターナショナルフェアも、本来の趣旨に則り、両校の保護者、生徒の交流の場をより充実させる方向で話し合いがもたれた。

評価項目 【テーマ】	教育環境整備 (テクノロジー) 【テクノロジー/ICT】	自己評価	A
目標	1. キャンパス ICT 環境の現状確認 (評価) 2. キャンパス ICT 環境将来構想構築へのニーズ把握 3. 本年度開始の「BYOD」についての現状把握		

具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(1. 2. 3.)-1 昨年度と同様、中等部・高等部生徒は ICT 環境についておおむね満足しているが、自由記述欄において旧式の PC 不満の記載が多く見られた。また、無線 LAN に対する要望が多く書かれていた。さらに BYOD にもとない、持参した機器から図書館プリンタへの出力を望む声も多かった。 (1. 2. 3.)-2 無線 LAN については、Free Wi-Fi を望む声が多く、ネットワークセキュリティの観点から、さらなる生徒への教育の必要性がある。 ・BYOD については、生徒・保護者とも理解している回答が多かったが、自由記述欄において、高学費との関係を指摘する意見が散見された。また、生徒から授業での利用が予想より少なく、毎日持参することを疑問視する意見もあった。 ・ネットワーク（特に Wi-Fi）強化についての意見が多くなり、生徒から Wi-Fi への自由な接続を望む声が自由記述欄で増加していた。 <u>目標について、旧式の PC のリプレイスについて年次計画で対応する方向性である。また、学内ネットワークの拡充についても次年度予算申請を行っている。関西学院中学部・関西学院高等部が、校内の ICT 化に大きく舵を切った。大阪府補助金による SOIS 校内無線 LAN 充実、SIS 高等部生全員への iPad 貸与から BYOD 転換等による SIS のアドバンテージは消滅しつつある。今後は上ヶ原の両校と切磋琢磨し、さらなる ICT 教育の充実をめざす必要がある。</u>
今後の方策	(1. 2. 3.)-1～2 予算年次計画による学内 PC のリプレイス、サーバ群の更新、校内 LAN ケーブルのバージョンアップ等、ハード面・インフラ面の拡充は着実に進行している。ネットワーク外部接続の帯域増加も、一部実現した。ネチズン（network citizen）教育も保護者、生徒アンケートから見る限り、成果が出ている。 (1. 2. 3.)-1～2 ICT 環境整備は継続して実施するが、BYOD の効果をさらに高める施策が必要である。授業での効果的な ICT 機器の使用について、iPad 導入時のように、SIS 教員全員による研修会を開催し、生徒のスキルアップにつながる授業方法について情報の共有化を検討する。 (1. 2. 3.)-1～2 BYOD に伴い、保護者から物品管理に関する懸念が数多く自由記述欄にみられた。上述の通り、「Five Respects」に照らし、Respect for Others/ Respect for the Environment を中心に重ねて指導を行うことによりこの問題の解決を図る。

評価項目 【テーマ】	キャリア教育（進路指導） 【進路】	自己評価	A
目標	1. 生徒・保護者に進路に関する十分な情報提供 2. SIS での学びをもとに生徒の自主的な進路決定への援助 3. 生徒に対する関西学院大学（KGU）各学部の情報提供		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(1. 2. 3.)-1 教員側から、進路および KGU についての情報提供を十分に行っているとの回答が多かったが、生徒・保護者の回答と乖離が見られた。特に、保護者の各種情報提供に関する回答において、KGU 以外は上位の回答より、中央値の回答数が最大となった。KGU 以外の日本の大学や外国の大学についての情報不足を指摘する自由記述欄が多かった。 (1. 2. 3.)-2 SIS 卒業生は、偏差値等に縛られることなく、自主的かつ自発的に		

	進学先・進路決定をしている。しかし、生徒に伝わる KGU（他大学全般を含む）の情報が限られている。KGU からのよりきめの細かい情報提供（学部・学科で何を学べるのか等）をさらに行う必要がある。 (1. 2. 3.)-3 法人合併後 7 年を経過し初めて KGU への院内推薦が卒業予定者の 1/2 を超えた。 <u>何を持って、進路についての情報提供が十分であるかの定義があいまいであるため、教員側と生徒・保護者の受け止め方に差が出ているようである。</u> <u>卒業生とのつながりが濃い学校であり、進路先満足度のヒアリングが容易であり、不満がストレートに聴取できる。（外国語授業選択等については、KGU に改善を求め、受け入れられた。）</u> <u>KGU の授業を早い時期から体験するイベントを開始し、好評を得ている。本年、数年途絶えていた経済学部への院内推薦志願者が 2 名出た。KGU の各学部情報をさらに生徒たちに伝える努力が必要である。</u>
今後の方策	(1. 2. 3.)-1~3 合併当初から、関西学院は SIS に対し、これまでどおりの教育を維持発展させるよう要請し、SIS もこれに応えてきた。生徒たちは、自主的に自らの進路を選択している。情報提供についても、生徒の自主性を尊重し、求められれば提供する立場を維持してきた。今後も生徒の自主性による「判断」は尊重しつつ、その「判断」を助ける情報の提供を SIS として積極的に行うことの検討を開始する。自らの進路選択のための情報を座して待つ生徒に対し、情報を積極的に取りに行く姿勢を進路の点に限らず、SIS での学校生活において身につけるよう教育全体として取組むよう再度教員間で確認を行う。 (1. 2. 3.)-1~3 KGU の魅力をさらに生徒に伝える努力を行う。今回、SGH で多大な協力をいただいている総合政策学部の単独学部説明会を SIS において実施する。また、高等部 1 年生全員を対象とした、理工学部教授の講話も実施した。今後も大学・学部と連携し、KGU 情報の伝達に努める。

（自己評価）

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

評価項目「学校生活・学習」「教育環境整備（テクノロジー）」はおおむね A 評価と考えられるが、「進路」は A マイナスといったところである。「Two Schools together」は昨年・一昨年に引き続き、B 評価であった。全体としては、A に近い A マイナスといったところと考える。

当時の文部省の提唱した「新国際学校」の思想を体現した SIS・OIS が設立され 30 年近い年月が経過した。関西学院との法人合併後 10 年が近づいている。設立当初から SIS 教育に尽力してこられた先生方が、櫛の歯を抜くように定年あるいは新天地を求めて SIS を後にされる時期となってきた。また、法人合併の準備段階から SIS に深くかわかり合併後も「統轄」として SIS・OIS そして学院との「繋（つなぎ）：連携」に尽力してこられた、関西学院院長も来年度に定年退職を迎えられる。SIS の教育は、学院内外から評価をいただいているが、前述の中等部一般入試の志願者減は SIS 内で大き

な問題として議論が始まっている。特に、ほぼ毎週「生徒獲得戦略会議（SKSK）」を校長・教頭・入試広報センターを中心に開催し、受験生確保の戦略を練ってきた。SIS の教育は創設当時の先生方が去られた後、統轄が引退後も維持・向上しなければならない。昨今、SIS 卒業生の教員が増加しつつあり、他校からも優秀な教員を加えている。

SIS 教育の維持・向上のため、自己点検評価をする機会が毎年あることは、非常に重要である。今回、アンケートの回収率が低かったことは、SIS の現状に満足する生徒・保護者・教員が多くなっていることも理由として考えられるが、関係者全員で SIS について観照する絶好の機会である。衆知を集め、問題点を洗い出し、問題解決の端緒となるべき重要な制度である。SIS のさらなる発展のため次年度はより多くの意見を聴取し、よりよい SIS のための議論のもととなる資料となるよう努力したい。

喫緊の課題として、前述の中等部一般入試における志願者減の問題がある。生徒募集の戦略を練ることも重要であるが、日本でも高水準の学費、さらに府の授業料無償化対象校でない点は避けて通れないところである。

2017 年度の評価をふまえて 2018 年度に予定している評価項目、テーマ等

すべての項目について、2018 年度も継続検討を行いたいところであるが、「教育環境整備（テクノロジー）」は方向性がほぼ固まっており、2017 年度の実施結果を確認する意味で次年度は「1 回休み」としたい。これに代わる評価項目として「安全管理」（「学校評価ガイドライン（平成 28 年度改訂）」に例示されている項目）を検討したい。

第三者評価／学校関係者評価

3 年目に入る SGH の成果が上がっていることは、千里国際中等部・高等部の大きな強みである。6 ランク中 2 番目という実績は高い評価であり、自信を持って良いと思います。今後、せっかくの OIS との交流を大事にして、中学生や高校生が世界に視野を向けながらも、日々の学習を通じて揺るがない人間としての土台を築ける学校として、これからも進んでいってほしいと思います。

SIS に入学して良かったという生徒たちの割合が多いのと同時に、プレゼンテーションなど主体的な授業の評価が高いのは、日頃の学校教育活動の成果の表れだと評価できます。自分で時間割をつくるなど、授業に満足し、意欲的に学習に取り組んでいることが、アンケートの数字からうかがい知ることができます。

生徒指導面での課題は、すべての学校において避けることができない問題です。教員が足並みをそろえて、少なくとも生徒が学校にいる間は、しっかりと生徒を見ているんだという姿勢が、盗難はじめ生徒間の問題を防ぐ力になると考えます。

千里国際のもう一つの強みは、キャリア教育であると思います。他の学校にはない教育の中で育った生徒たちが、語学力だけではなく様々な知性を見につけて、世界の舞台へと羽ばたいていくことができる、それが千里国際の魅力であると感じています。今年度実践されたように、総合政策学部や理工学部はじめ、関西学院大学の情報も含めて、より幅の広い選択肢から自分の進路を選べる指導が、これからも継続されることを期待します。

ICT 教育も従来から恵まれた環境で実施されているように感じます。ICT 機器の使い方の指導がきちんとされていることが数字からわかりますが、これからも BYOD はじめ、より質の高い ICT 教育の授業実践を期待し、教員の研修方法も含め、我々も千里国際中高から大いに学びたいと考えます。

関西学院との法人合併を経ながら、30年に及ぶ設立当初からの理念を維持しつつ、“Two Schools Together”の他校にはない強みをIBDPや寮での共同生活などを通じてさらに高めようという努力もあり、受講生も徐々に増えてきています。少しずつではありますがその効果が今後高まっていくことと思われます。他校との差別化を図ることのできる大きな特徴でもありますので、新しい受験者層の獲得につながることを期待します。

ただ、現実には厳しい受験者獲得の状況に置かれていますので、これまで築かれてきたSISとしての特徴ある教育を前面に出してアピールしながら、IBDP以外での教育面においても保護者の学費に見合った教育を受けているという満足度がこのまま年を追って上がっていくよう、継続して改善につなげていくことを期待します。また、関西学院大学への接続も含めて様々な進路保証も加え、より魅力ある学校にしてほしいと願います。

SGH事業は文科省からの高い評価を得て、残る2年の事業期間でさらに他校のSGHの参考になる学校になると考えます。昨年度からの高等部10・11年生全員の「SGH課題研究」がメンター制度を設置し、その制度が有効に機能しながら生徒全体の研究の質を高めていることが様々な成果発表の場からうかがうことができます。ただ、指摘されているようにB層の生徒との乖離が見られますが、学年進行に伴いA層が増加しB層が減少していることは評価できます。

生徒指導面における問題指摘がありますが、ここは生徒自身の意識改革とともに未然に問題が生じない環境整備、学校全体としての雰囲気作り、醸成をしてほしいと思います。

ICTに関する機器、設備の更新については財政問題が絡むだけに簡単に解決には至りませんが、関西学院との包括的な計画の中での充実を図ってほしいと思います。

関西学院大学との連携については、神戸三田キャンパスとの連携が特になされており、今後ともその関係を維持し、生徒の自己実現としての進路であり、強制力をもって指導することは望しくないなので慎重を要するところでもあります。建学の精神の共有、その理解を深め、SISの生徒の関西学院大学への進路に向けての取組を進めていくよう希望します。

教育理念・使命・目標、「二つの学校 一つのミッション」は素晴らしく、その理念や実践システムを、全国に発信して行って欲しいです。

SGHが3年目に入り、成果が着実に上がっていることはとてもいいことです。そのことが学校生活・学習への満足感の上昇に繋がっていると思います。今後も主体的・対話的で協働的な深い学びの実践を進めて行って欲しいです。その中で、生徒一人ひとりに汎用的な能力をつけて行って欲しいです。

「二つの学校 一つのミッション」のもと、OISとSISとの共通授業が行われ、交流が日常的に行われていることは素晴らしいことではありますが、高等部において、深い交流の工夫改善を行えばより評価が上がってくると思います。

キャリア教育とは、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育」（中央教育審議会）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）と定義されています。キャリア教育は、単に進路を選択するための教育ではなく、生徒一人ひとりが自分の将来をどう生きていくのかを考え追究していく教育です。自分は何をめざすのか、そのために何を学ぶのか、学んだことを何に活かしていくのか等を生徒一人ひとりが考え実践力を高めていくための教育です。このようなキャリア発達を促す教育を展開していくには、学年の発達段階に応じたキャリア教育プログラムを全教職員一丸となって作成し、生徒を支援していく必要があると考えます。また、その取組を保護者にも適宜発信し理解を深める必要があります。さらに、関西学院大学の各学部と連携を深める高大連携もより多く進めていくことも必要と思います。

環境整備が着実に進んでいることは、評価できます。今後、さらに充実していくよう取組むとともに、生徒一人ひとりの情報モラルの定着とメディア・リテラシーの向上にも努力してほしいです。

「二つの学校 一つのミッション」という特殊な学校運営のもと進められる SIS の教育は、関西学院との法人合併から 10 年近く経つ今日をもってしても挑戦的であり評価に値するものと感じています。一方で進路指導においては、具体的な取組の状況とその効果に対する評価の欄で記されているとおり、関西学院大学についての情報提供に関して教員と生徒の回答に相当な乖離が見られます。関西学院大学への興味を持っている生徒の一人ひとりへ、本当にきめ細やかな対応ができているのか不安が残ります。この点については、単なる自己評価への対応に止めず、教員の意識と生徒への適切な対応の両面が求められます。

文科省による SGH の中間評価で高評価が得られたことについては、教員はじめ関係者の方々の熱意とご尽力に感謝します。今回の評価に満足することなく、高評価を獲得している他校の取組を参考するなどして、今後も充実したプログラムの開発と進化を期待しています。

ICT を活用した教育の取組はアンケートからも評価されていますが、その一方で、各家庭で数万円するパソコンを購入し、ウィルス対策のセキュリティ・ソフトの購入・インストールが必要な BYOD は保護者目線でいうと、経済的な負担であることは事実です。アンケートのコメントにあるように、キャンパスでの盗難が少なくない現状では、子供に端末を学校に持参させることにリスクを感じている保護者が多数います。それに対する学校側からの方策をコミュニケーションし、保護者がリスクと感じている点の軽減に一層の努力が望まれます。

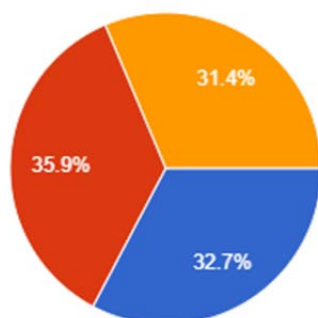
「授業のすすめ方、成績のつけ方等に関する説明」、および「国内の進路先についての豊富な情報の提供」に関する評価項目では、教員とステークホルダー間の認識にギャップが感じられました。生徒の多彩な進路への、きめ細やかな対応はリソースの観点から簡単ではないとは思いますが、キャリア教育のさらなる充実のための努力を引き続きお願いしたいです。

2017 年度学校評価

2017年度関西学院千里国際中等部学校評価 生徒アンケート (回収率93.6% 220人/235人中)

学年を教えてください

220 件の回答



● 7年生
● 8年生
● 9年生

0 : 全くそう思わない

1

2

3

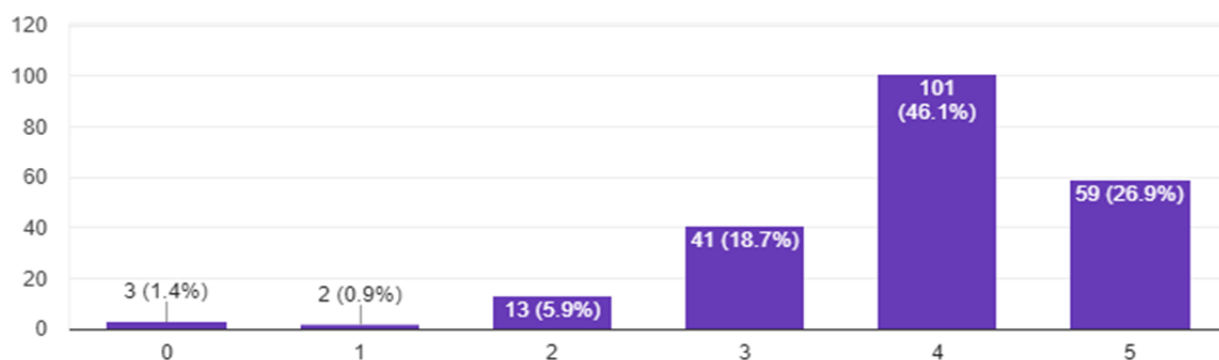
4

5 : 強く思う

学校生活・学習について

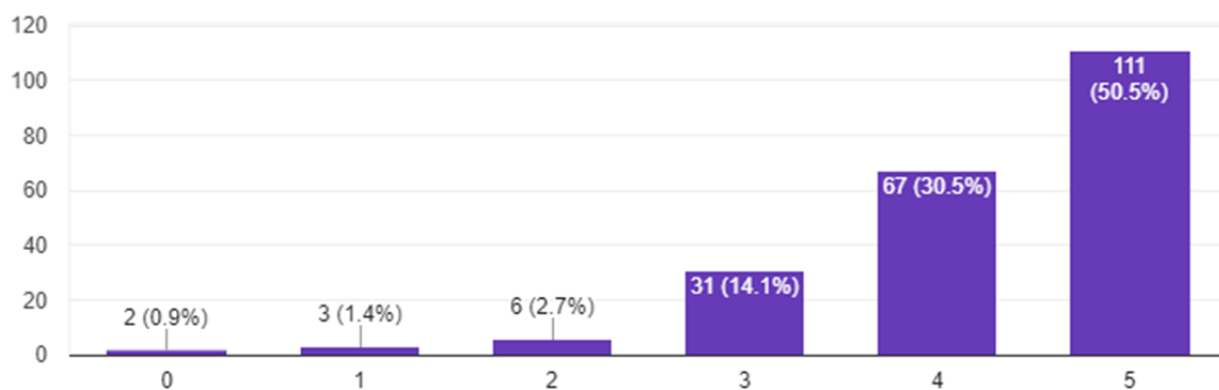
1) 学校で自分らしく過ごしている。

219 件の回答



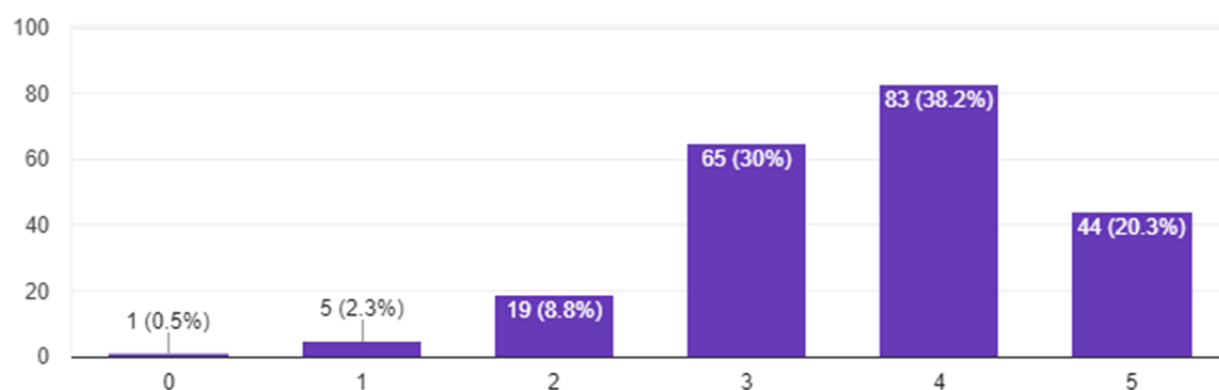
2) 自分はSISに入学してよかった。

220 件の回答



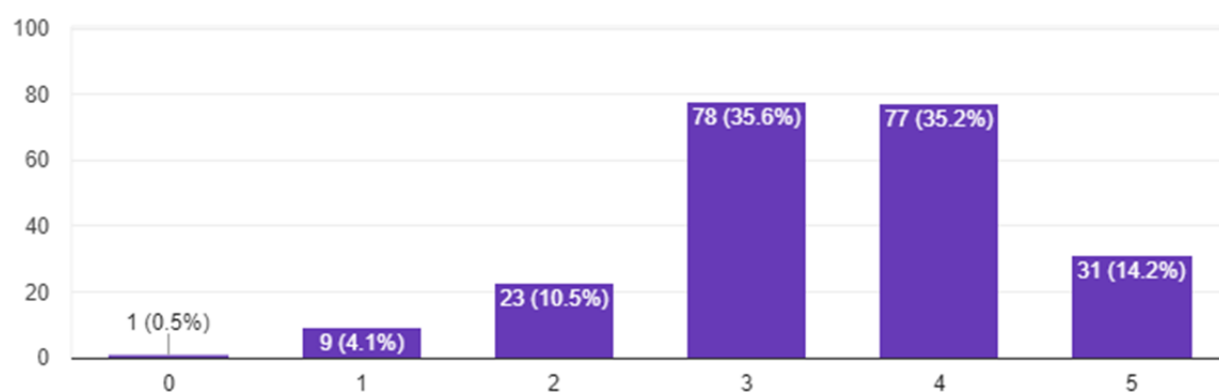
3) 学校での授業に全体的に楽しく取り組んでいる

217 件の回答



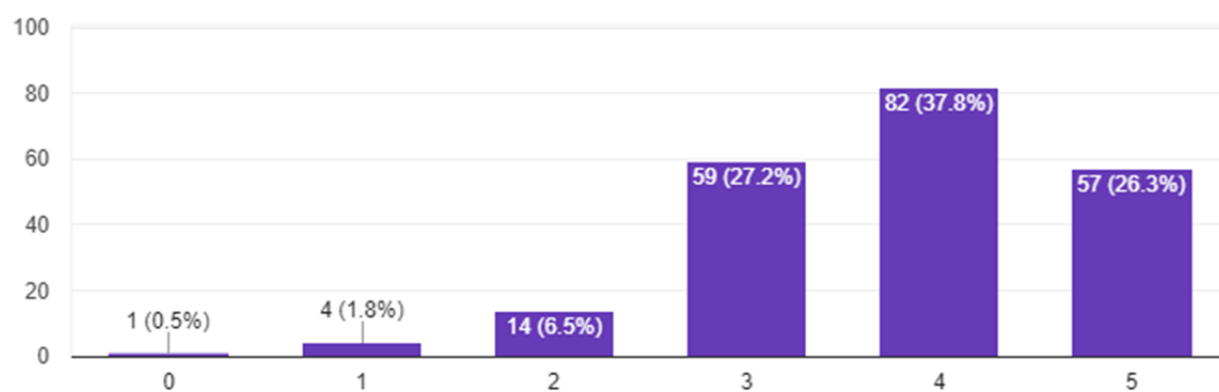
4) 自分の学習する力が伸びていることを感じる

219 件の回答



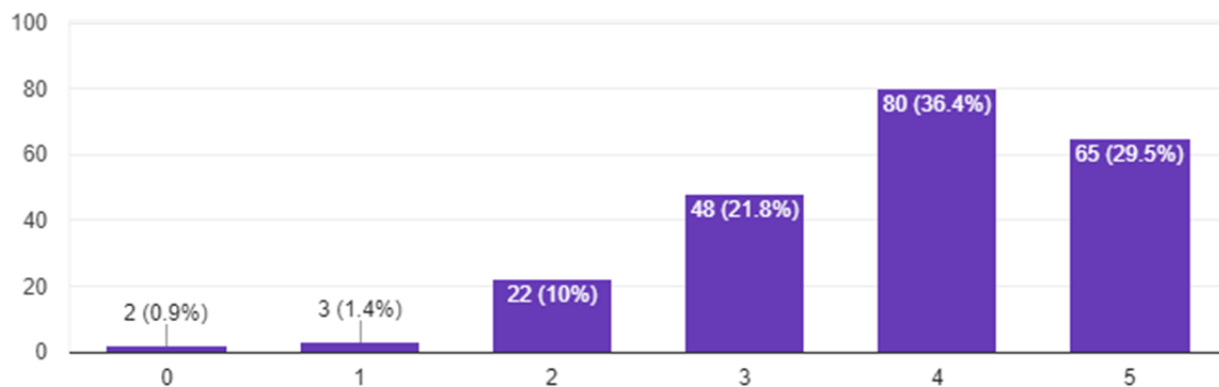
5) 先生は授業の進め方や成績のつけ方などについて学期のはじめに説明をしてくれている

217 件の回答



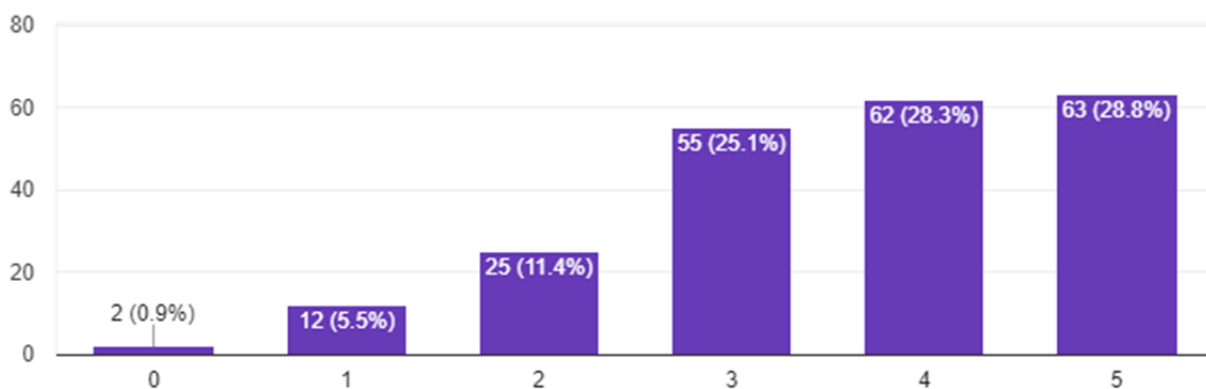
6) リサーチの仕方やプレゼンテーションについて学ぶのは楽しく意義があると感じる

220 件の回答



7) 試験や宿題をする時のアカデミック・オネスティについて先生から指導を受けている。

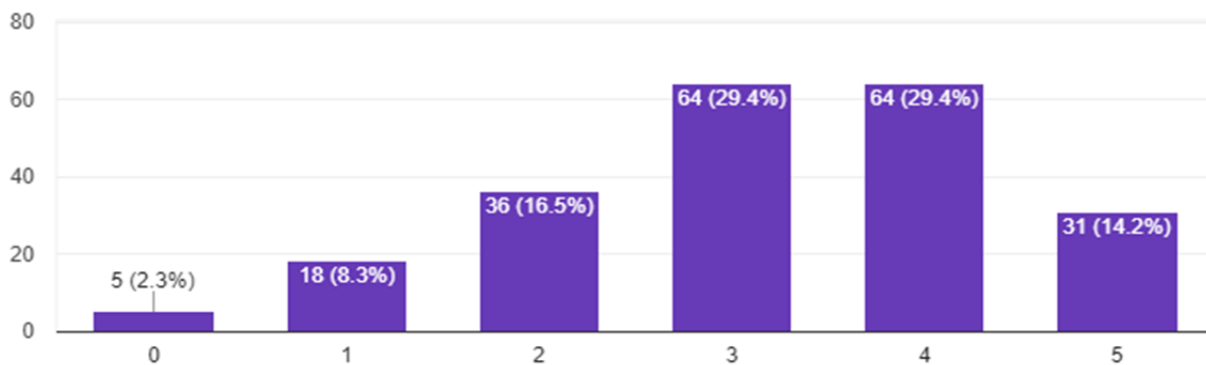
219 件の回答



Two Schools Together

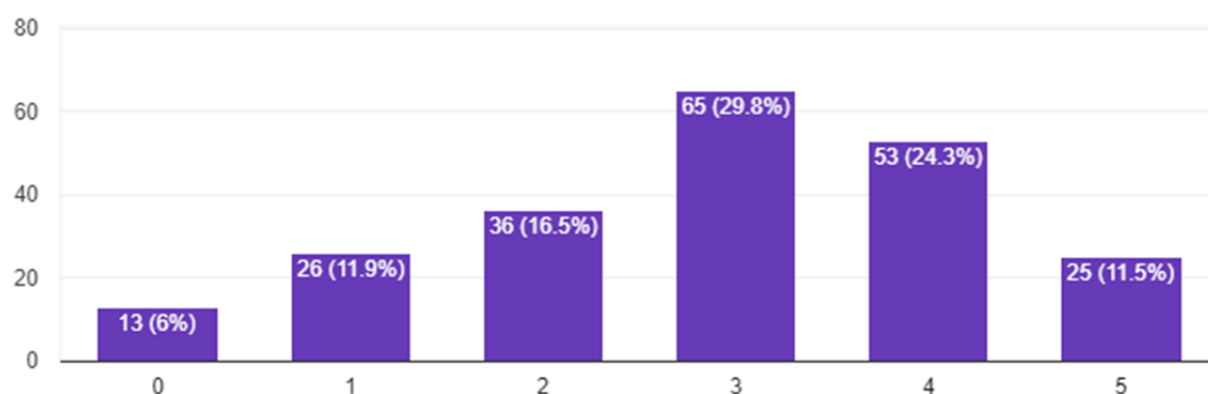
8) O I S の生徒や教員と日常的に交流する機会が多くある

218 件の回答



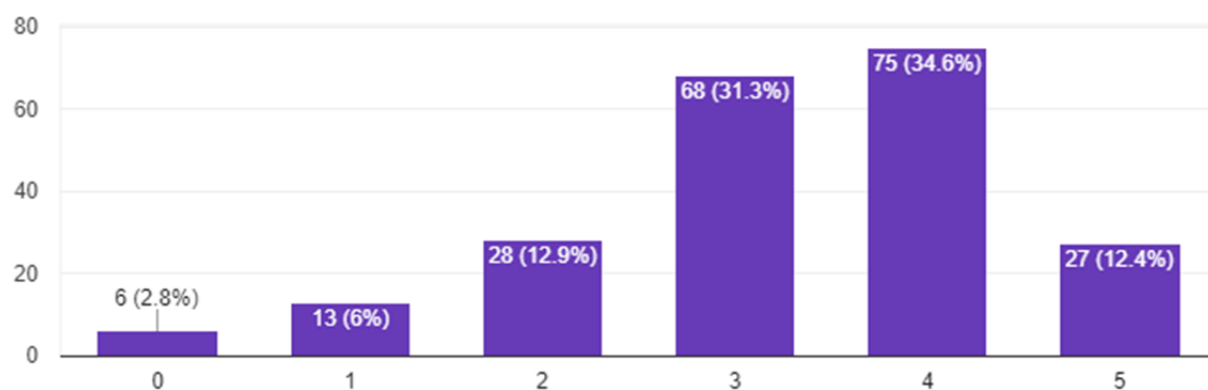
9) OISがそばにあることで、自分の生活や学習が実際に豊かになっていると感じる

218 件の回答



10) SISはOISと共に、「知識と思いやりを持ち創造力を駆使して世界に貢献する個人」を育てている。

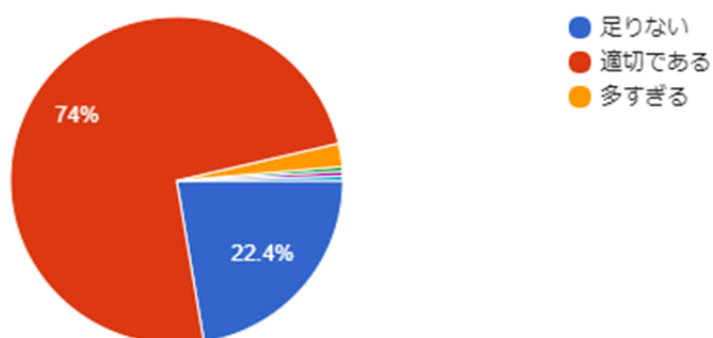
217 件の回答



生徒活動・国際交流

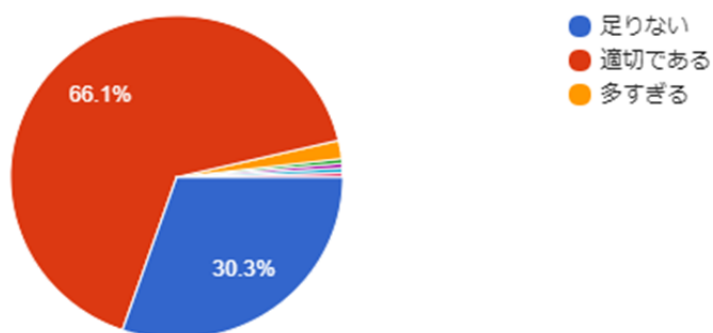
11) SISが提供している授業外の活動（クラブなど）の機会は適切なものである

219 件の回答



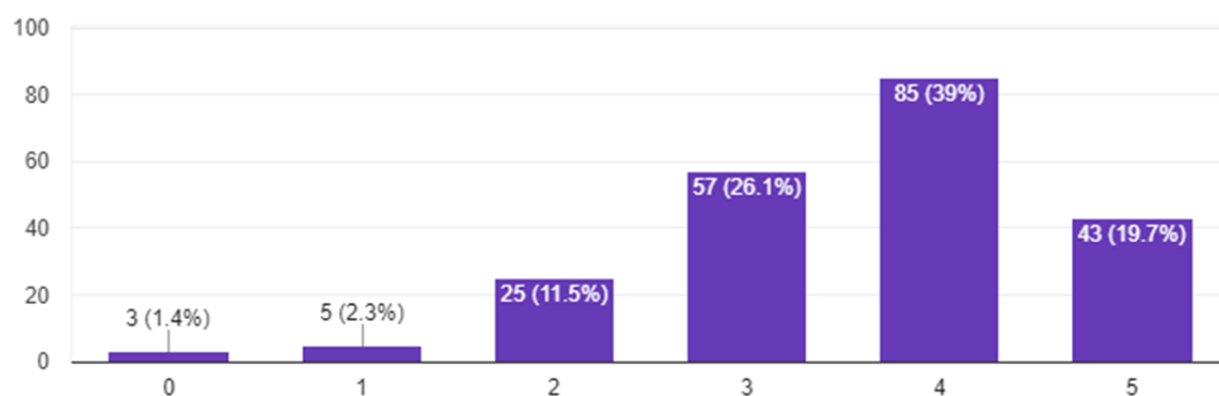
12) いろいろな活動についての情報の量は適切である

218 件の回答



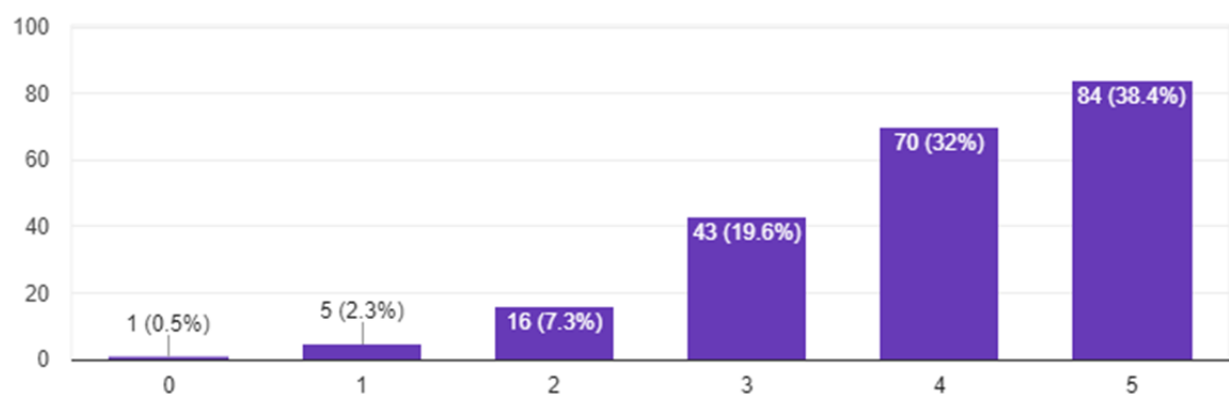
13) キャンプや遠足などの体験学習を通して、自身の自主性、創造力や協力する心が養われていると感じる。

218 件の回答



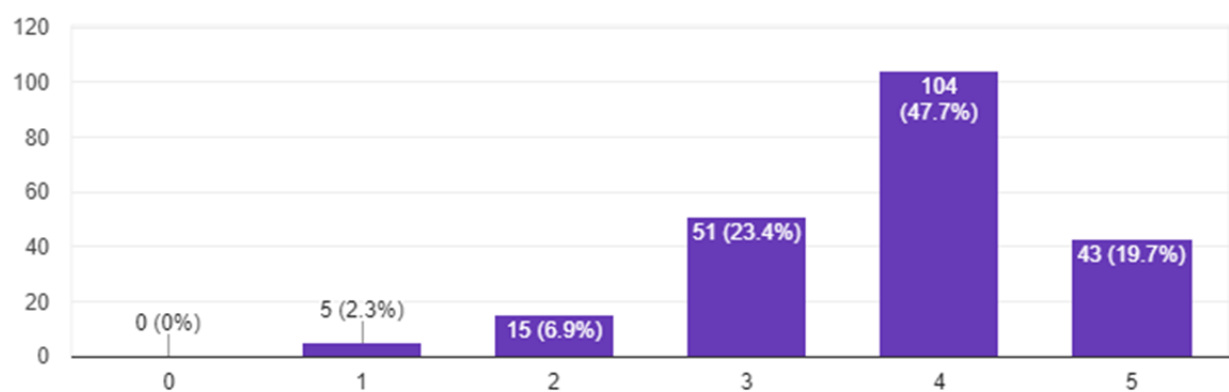
14) 夏休み期間中の活動（キャンプなど）は充実している

219 件の回答



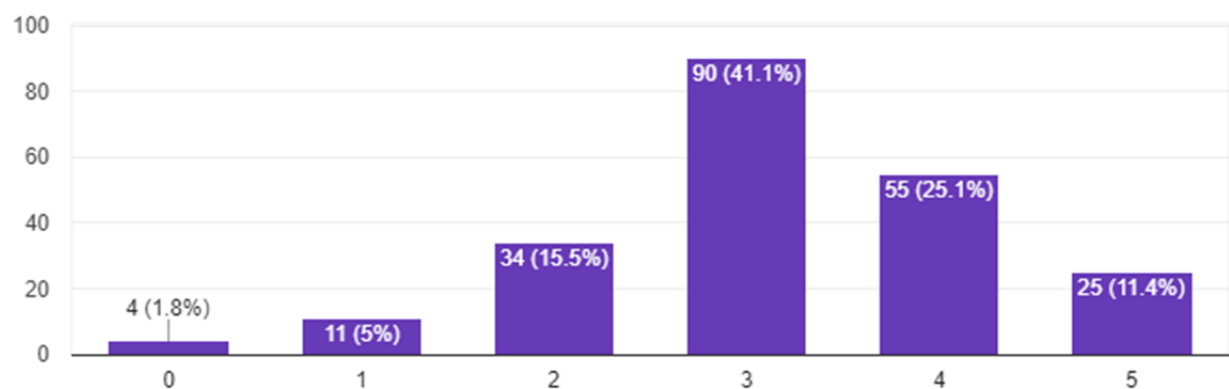
15) SISでは、国際的な視野が広がるプログラムが十分用意・紹介されている

218 件の回答



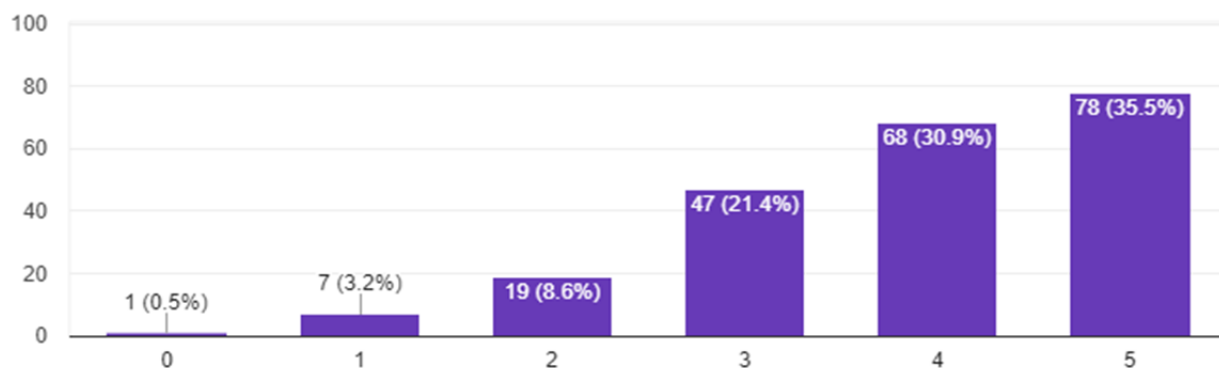
16) SISでは、授業の中で、世界の一員として生きていることを実感できる機会が多くある

219 件の回答



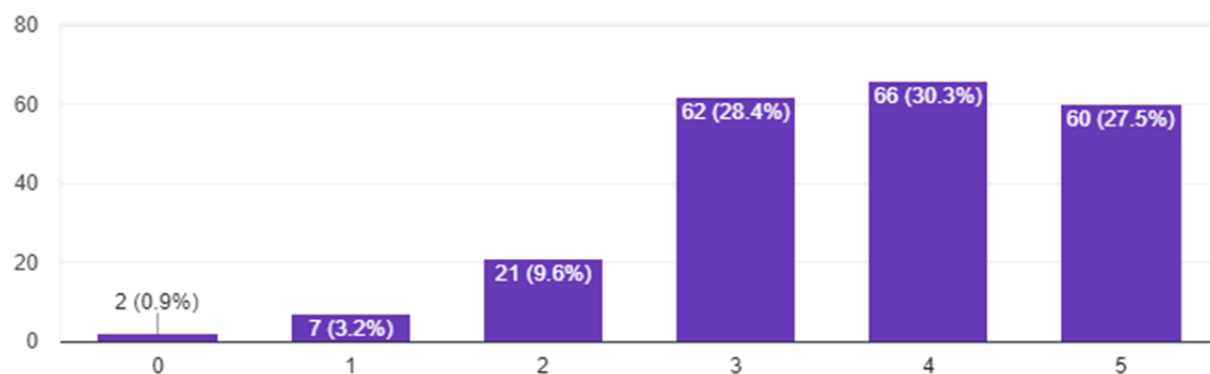
17) 学校で、授業に必要なことでICT機器(コンピューターなど)が必要なときには使うことができる。

220 件の回答



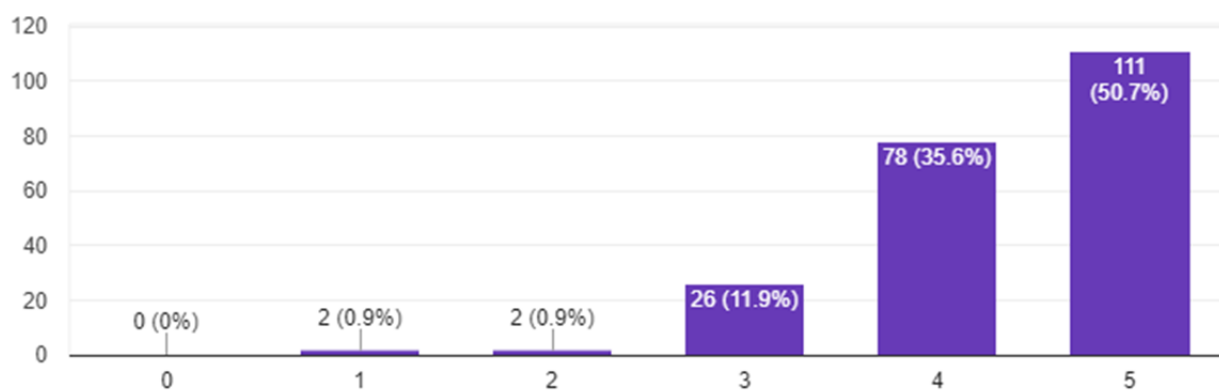
18) 授業で、ICT機器やインターネットの使い方をよく教えてもらっていると思う。

218 件の回答



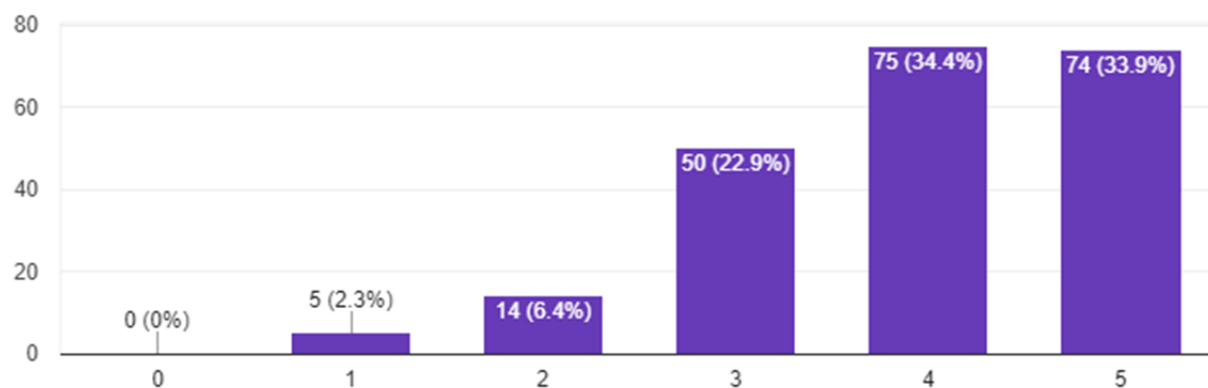
19) ICT機器やインターネット(携帯電話・スマートフォンを含む)を使うときに気を付けるべきこと(犯罪行為、いじめなど)についてよくわかっている。

219 件の回答



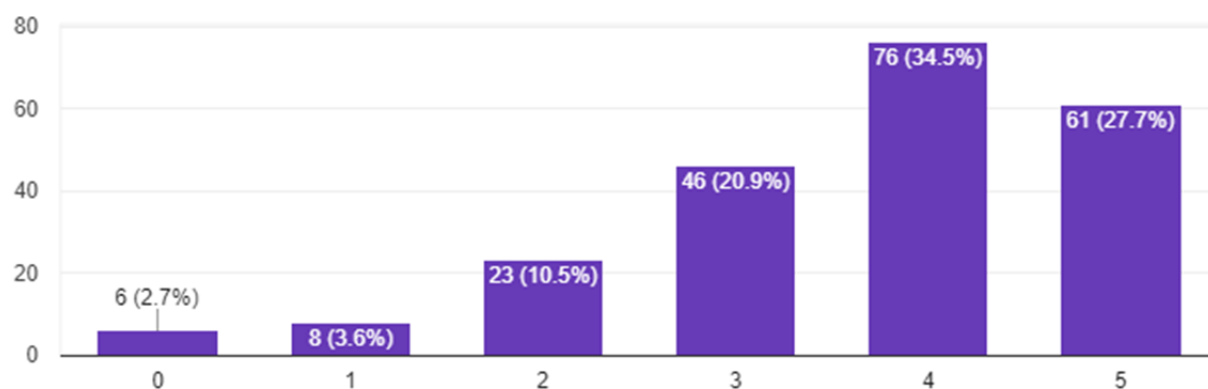
20) ネットワーク上で個人情報を守る方法についてよくわかっている。

218 件の回答



21) 2017年度から始まったBYOD（高校生になるとパソコン等自分のデバイスを学校に持ってくる）という学校の方針を理解している。

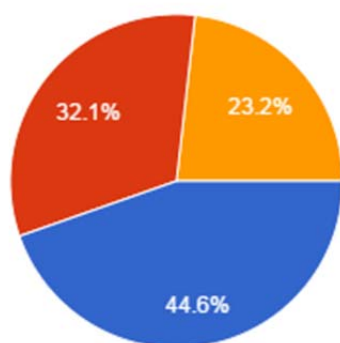
220 件の回答



2017年度関西学院千里国際高等部学校評価 生徒アンケート (回収率64.9% 168人/259人中)

学年を教えてください

168 件の回答



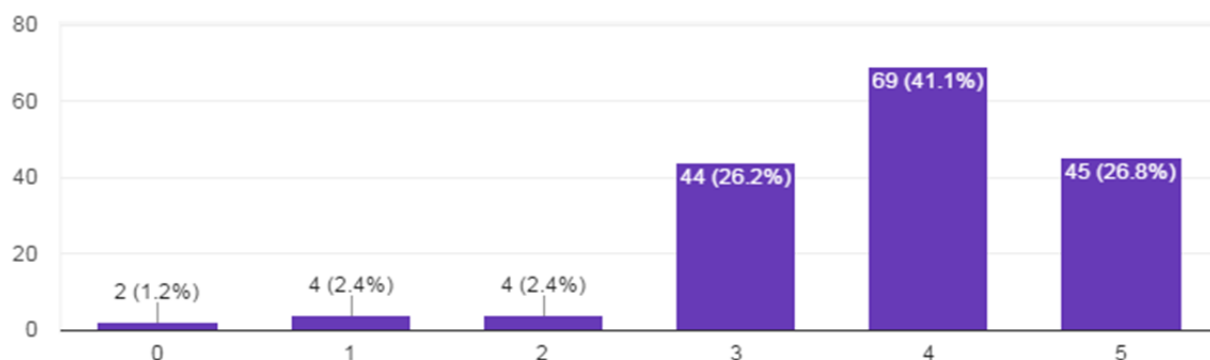
● 10年
● 11年
● 12年

0 : 全くそう思わない
1
2
3
4
5 : 強くそう思う

学校生活・学習について

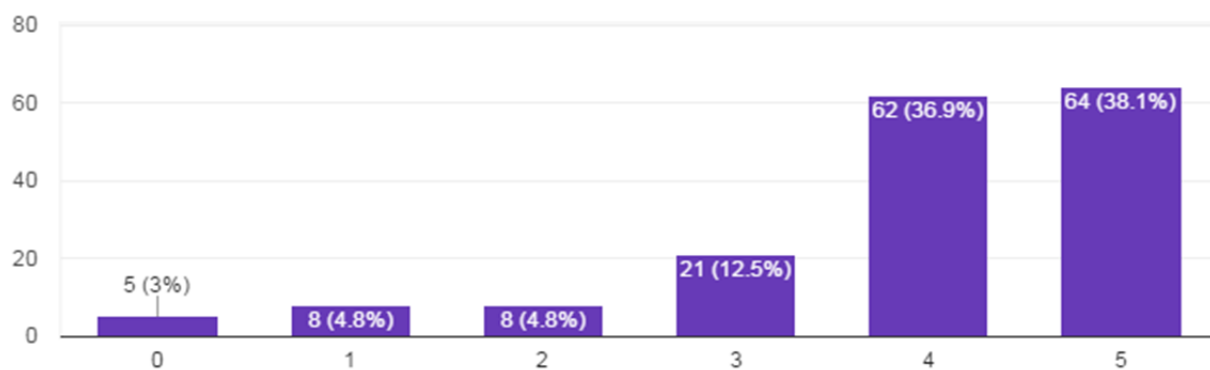
1) 学校で自分らしく過ごしている。

168 件の回答



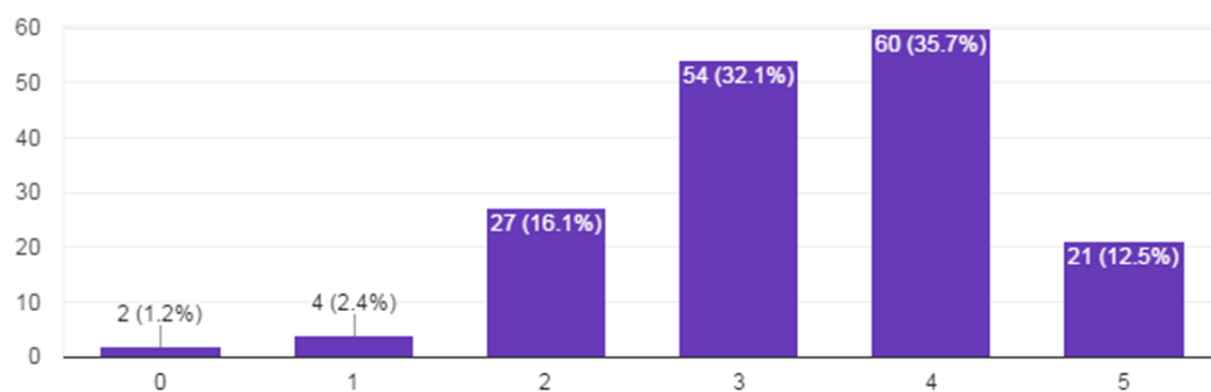
2) 自分はSISに入学してよかった。

168 件の回答



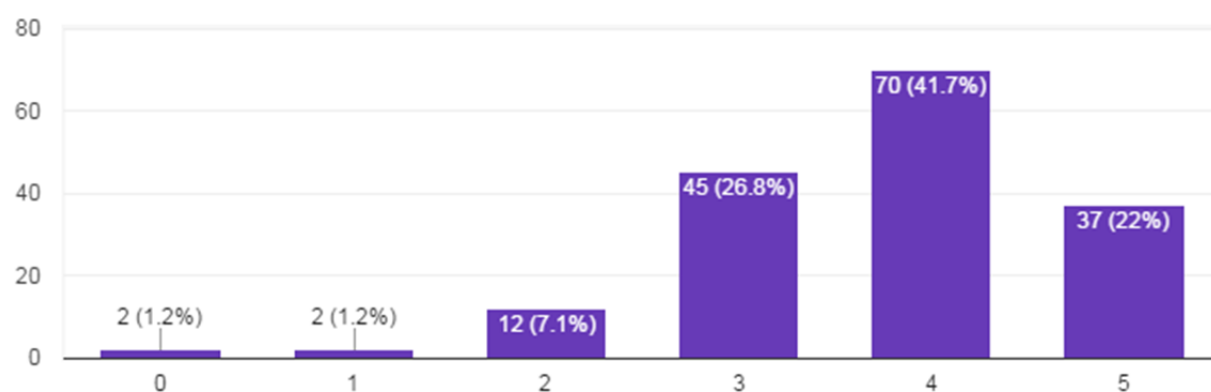
3) 学校での授業に全体的に満足している

168 件の回答



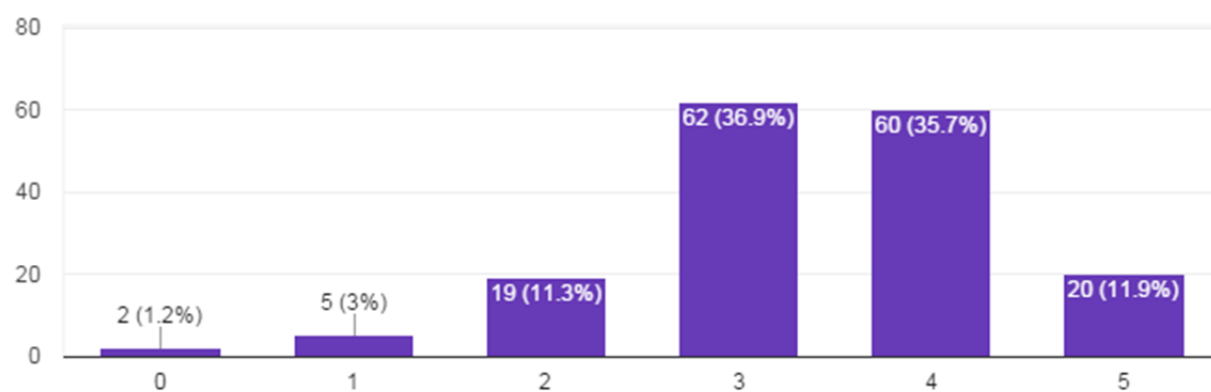
4) 自分は意欲的に学習に取り組んでいると思う

168 件の回答



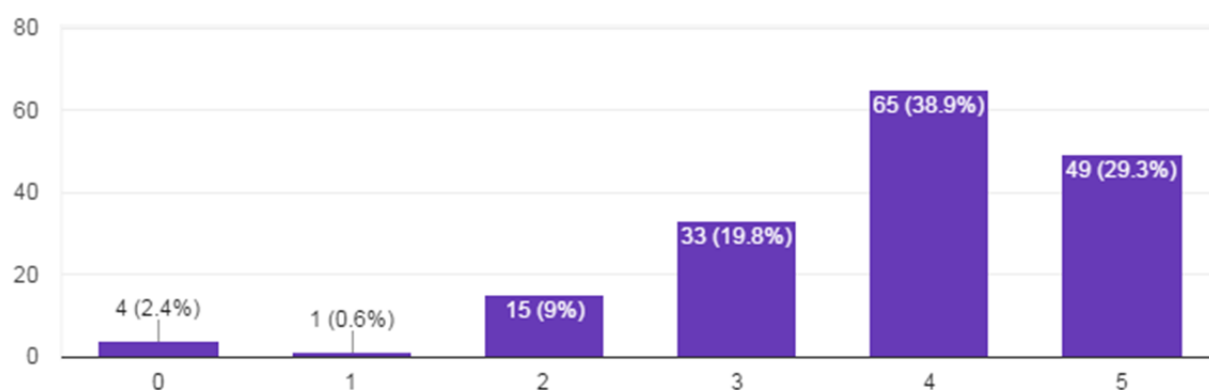
5) 先生から授業の進め方や成績のつけ方について十分な説明を受けていると感じる

168 件の回答



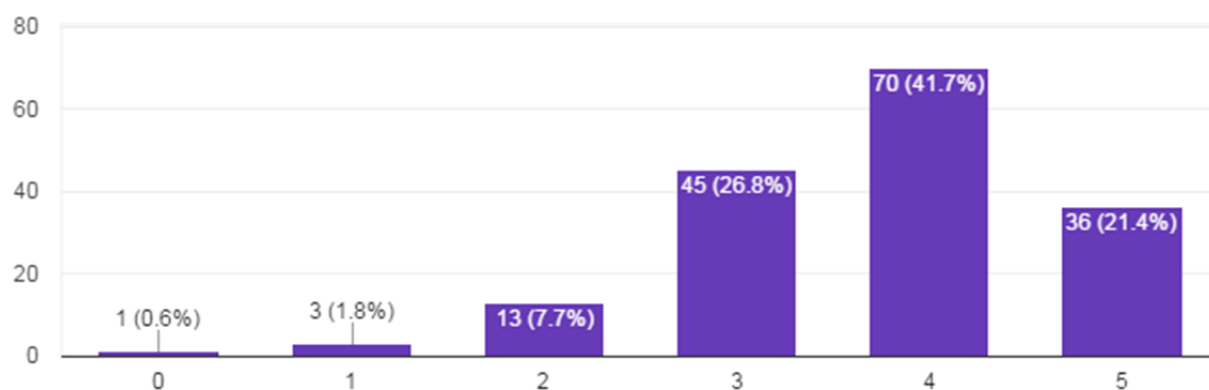
6) 授業を選択し、自分で時間割を作成するシステムに満足している

167 件の回答



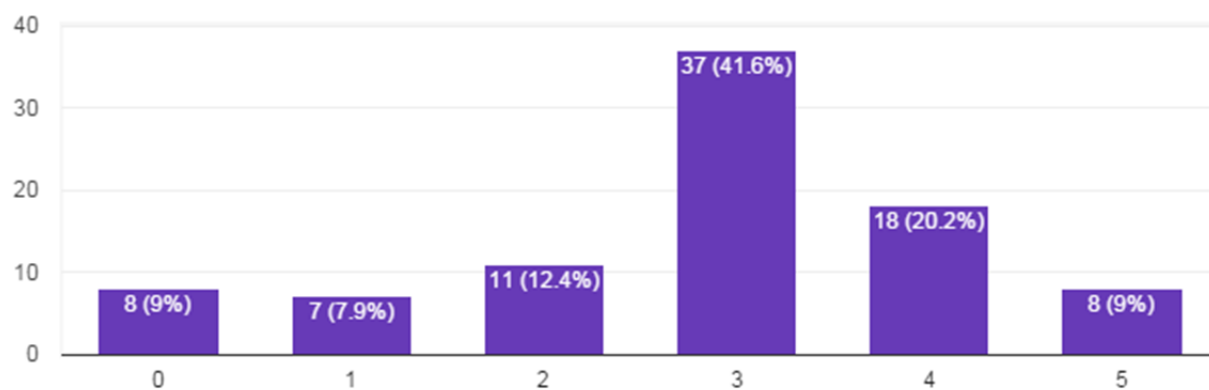
7) リサーチの仕方やプレゼンテーションなどの技術を体系的に学んでいると感じる

168 件の回答



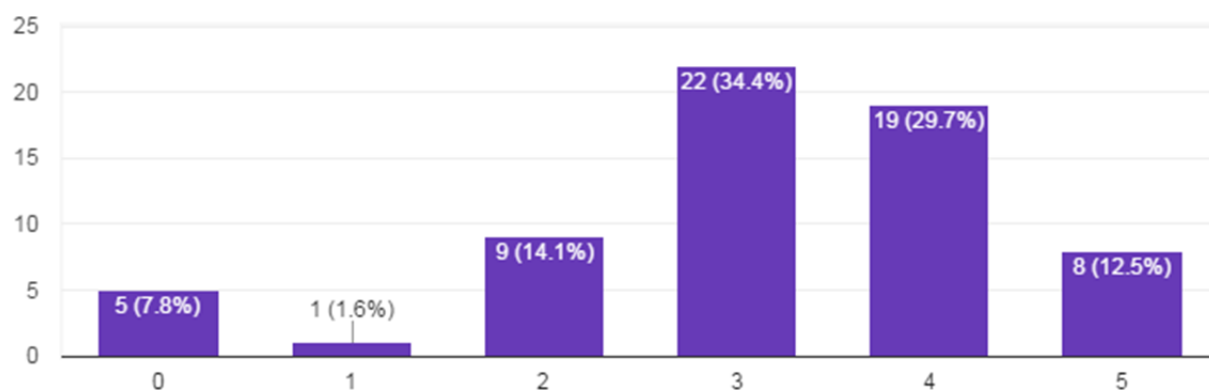
8) <10年生のみ> 知の探究の授業での学びを通じ、11年生から本格的に取り組む個人の課題研究が楽しみである。

89 件の回答



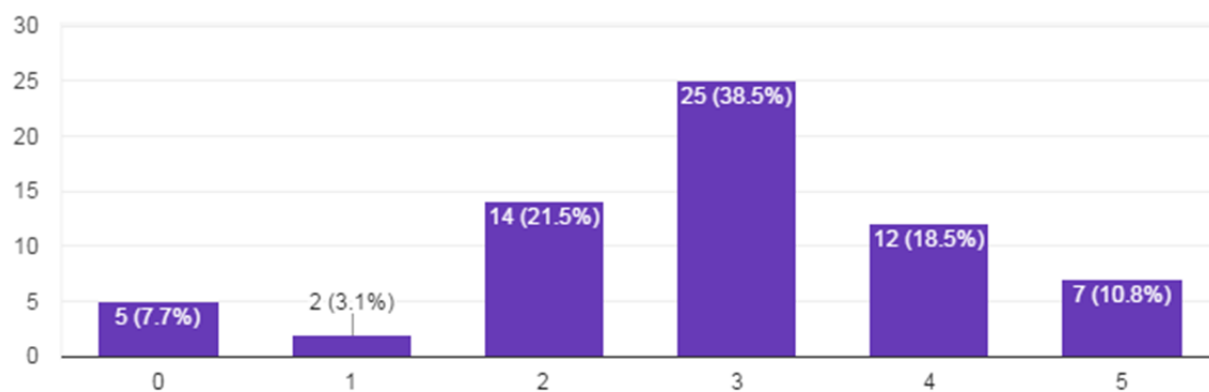
＜11年生＞①10年時の知の探究、11年でのフィールドスタディを経て課題研究に取り組むことが自己自身への理解を深めている

64 件の回答



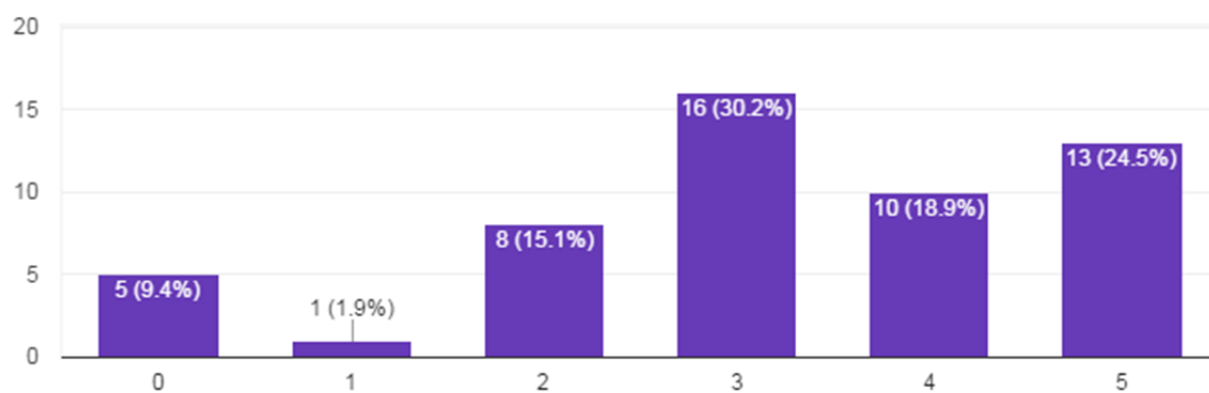
②課題研究への取り組みは、充実感をもたらす楽しいものである。

65 件の回答



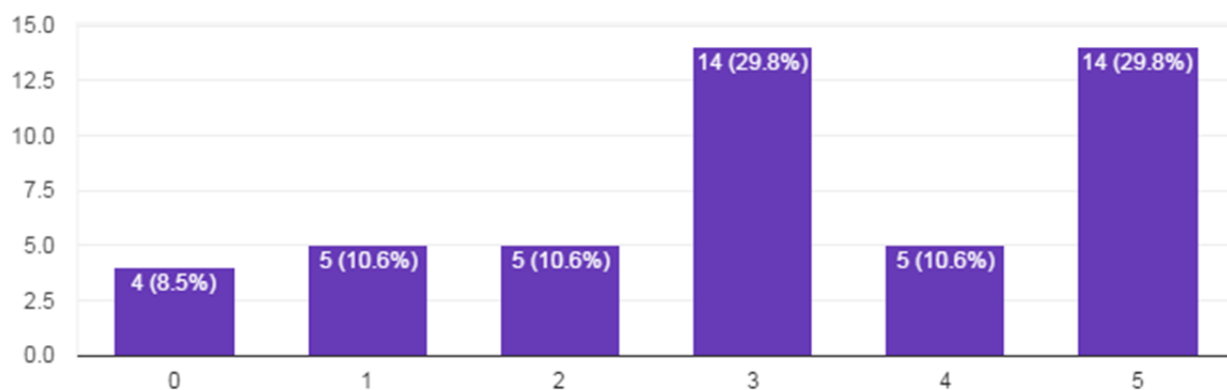
＜12年生＞①課題研究への取り組みにより自分自身への理解が深まった

53 件の回答



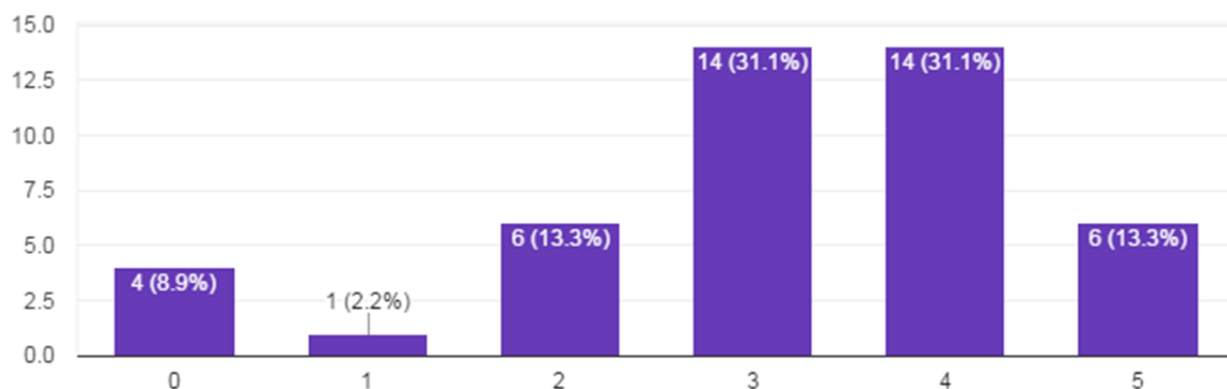
②課題研究への取り組みにより、未来を展望する力が高まった。

47 件の回答



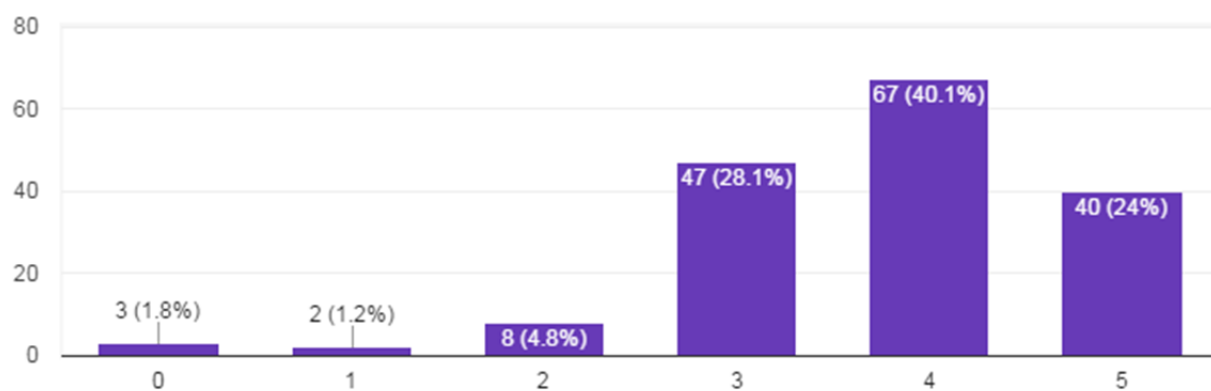
③<12年生のみ>プログラムを通じて課題解決の力を伸ばすことができた。
(他への応用ができたか・できそうか)

45 件の回答



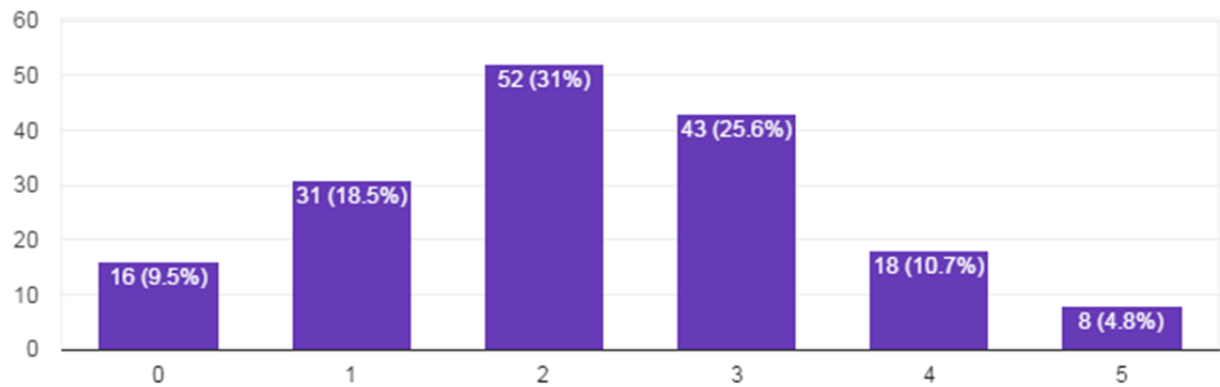
9) 試験や課題に取り組む時のアカデミック・オネスティについて、自分は十分な理解を持って実践できている。

167 件の回答



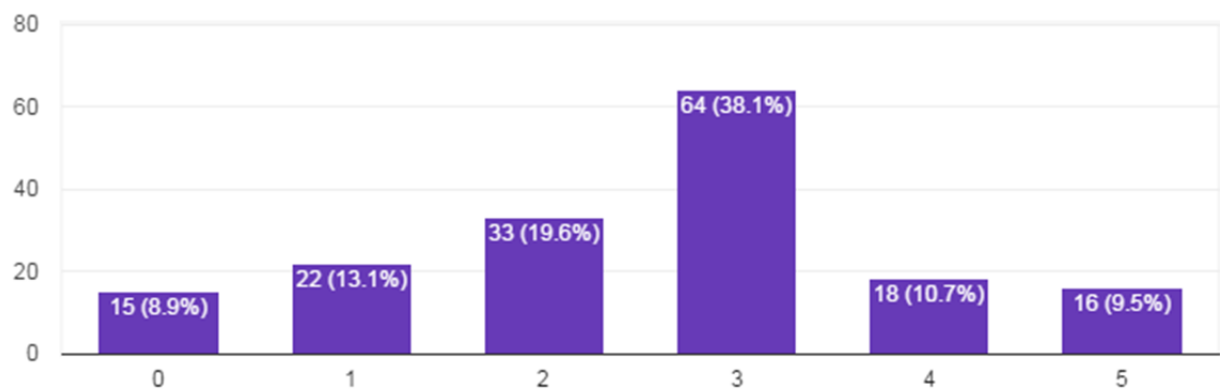
10) OISの生徒や教員と交流する機会が日常生活の中で十分にある

168件の回答



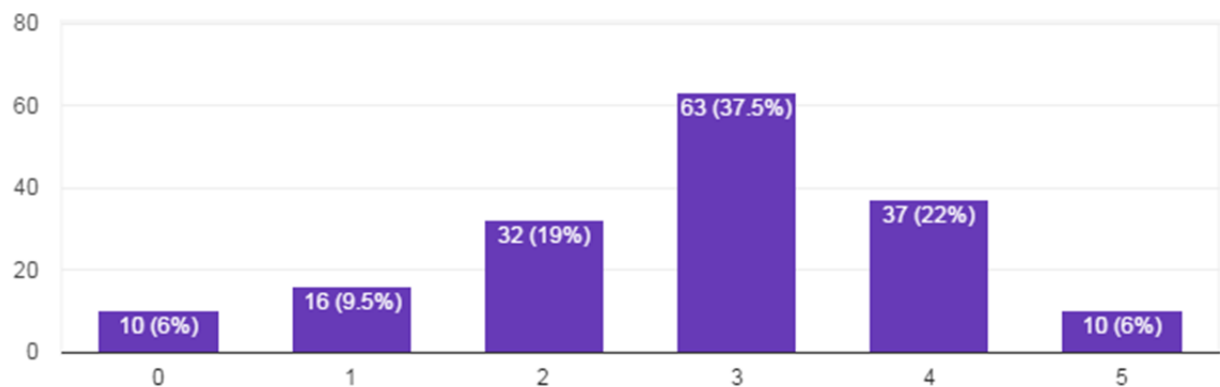
1 1) OISが併設されていることで、自分の生活や学習が、実際に豊かになっていると感じる

168件の回答



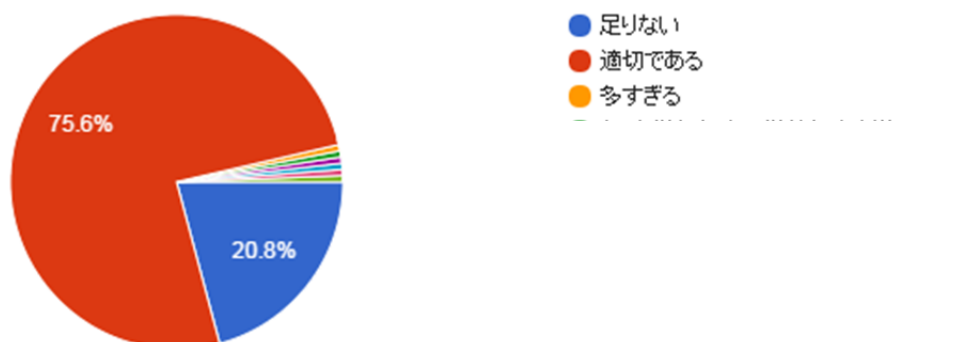
12) S I SはOISと共に、「知識と思いやりを持ち創造力を駆使して世界に貢献する個人」を育てている。

168件の回答



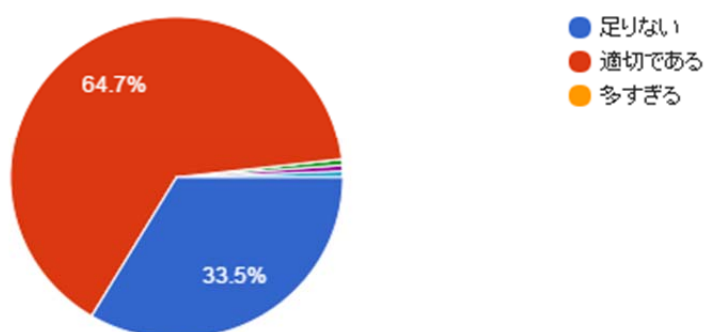
1 3) SISが提供している授業外の活動（クラブなど）の機会は適切なものである

168 件の回答



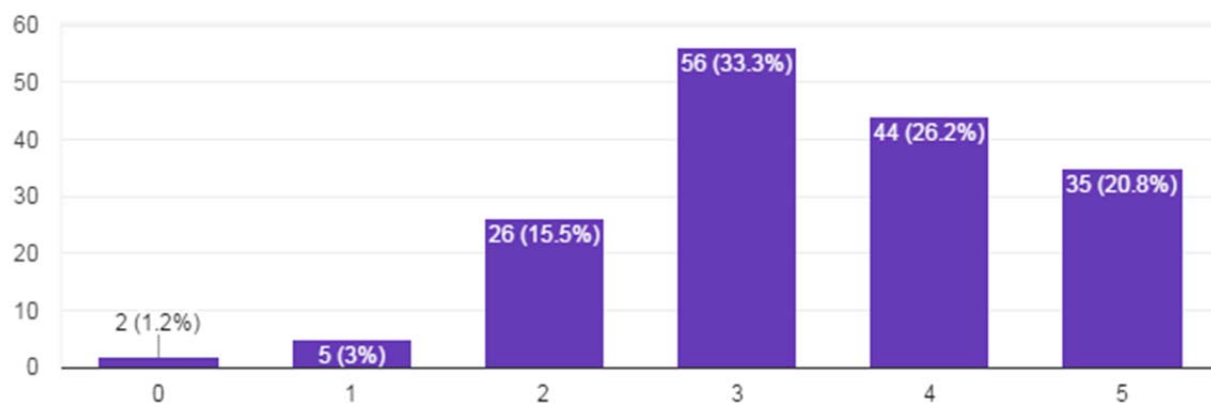
1 4) 様々な活動やイベントに関する情報の量は適切である

167 件の回答



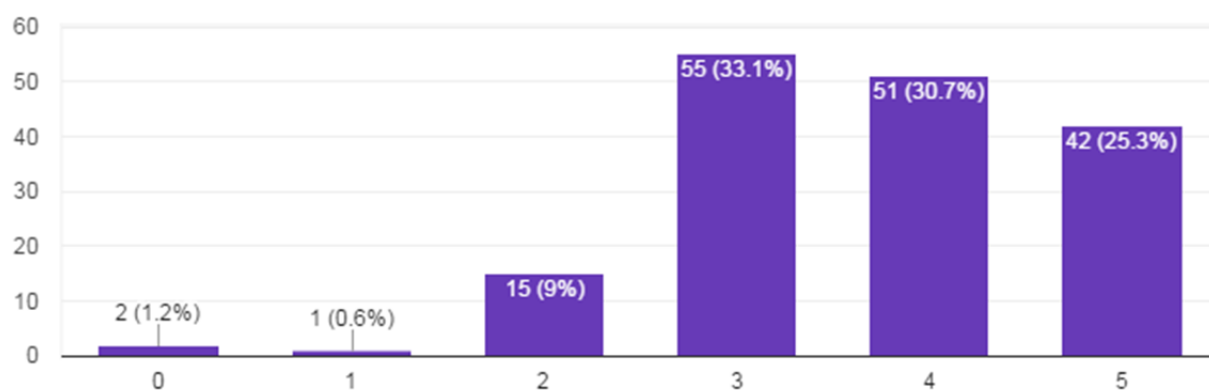
1 5) キャンプや遠足などの体験学習を通して、自身の自主性、創造力や協力する心が養われていると感じる。

168 件の回答



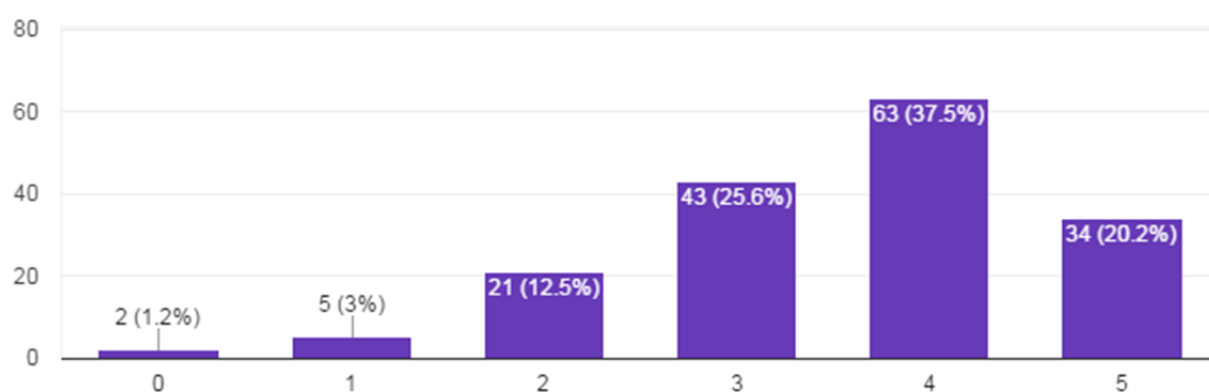
16) 夏休み期間中の活動(キャンプやフィールドスタディなど)は充実している

166 件の回答



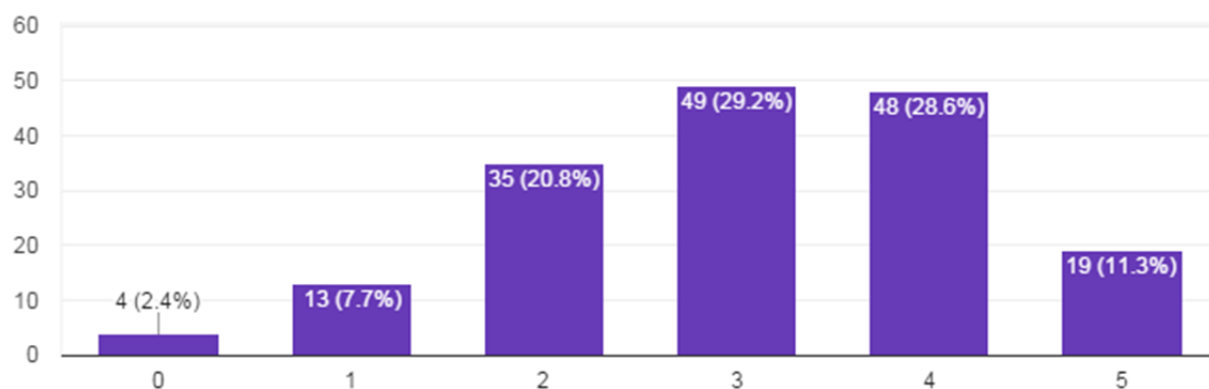
17) SISでは、国際的な視野が広がるプログラムが十分用意・紹介されている

168 件の回答



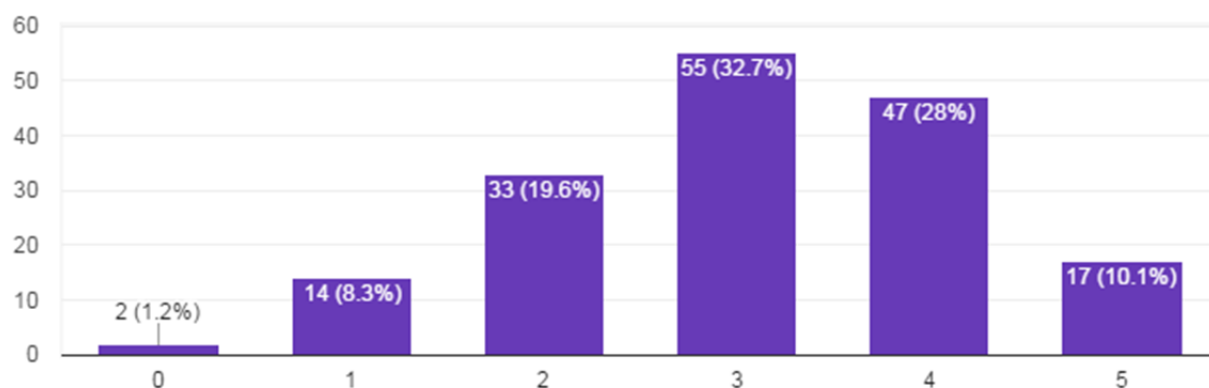
18) SISでは、授業の中で、地球市民として生きていることを実感できる機会が多くある

168 件の回答



19) 授業や授業外の活動を通じて、地球市民としての意識が高まっていると感じる。

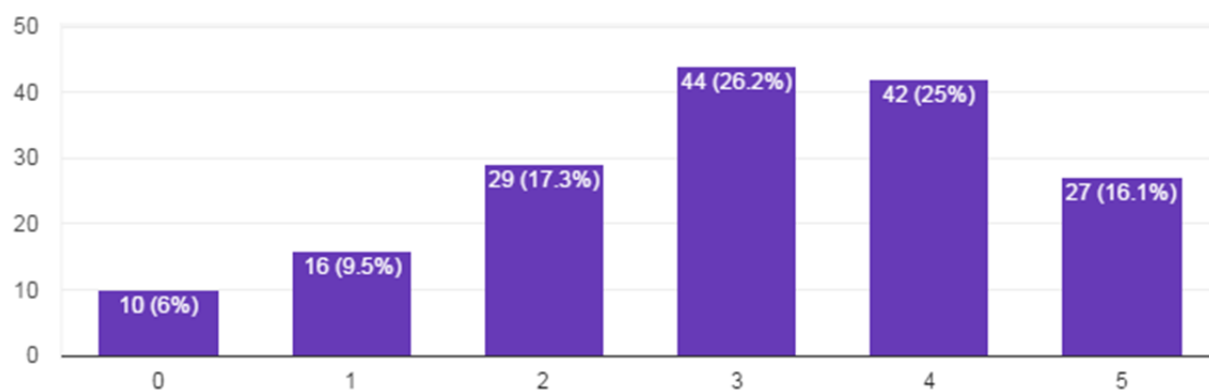
168 件の回答



インフォメーションテクノロジー

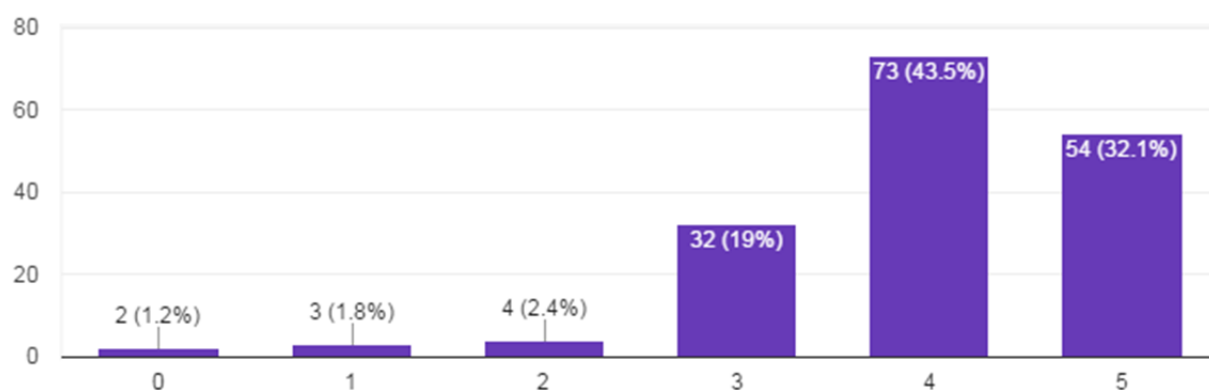
20) 学校でのICT環境は充実している。(デバイス、Wi-Fi、プリンターなど)

168 件の回答



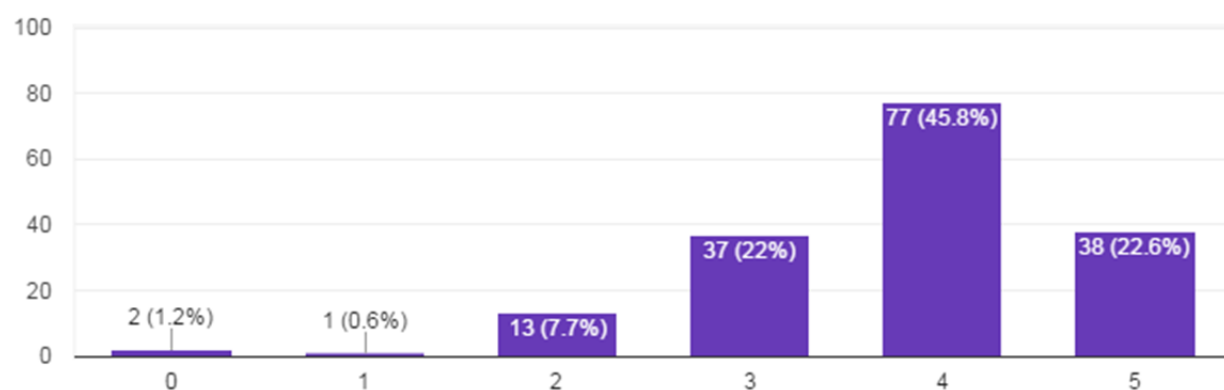
21) ICT機器やインターネット(携帯電話・スマートフォンを含む)を使うときに気を付けるべきこと(犯罪行為、いじめなど)についてよくわかっている。

168 件の回答



22) ネットワーク上で個人情報を守る方法についてよく知っている。

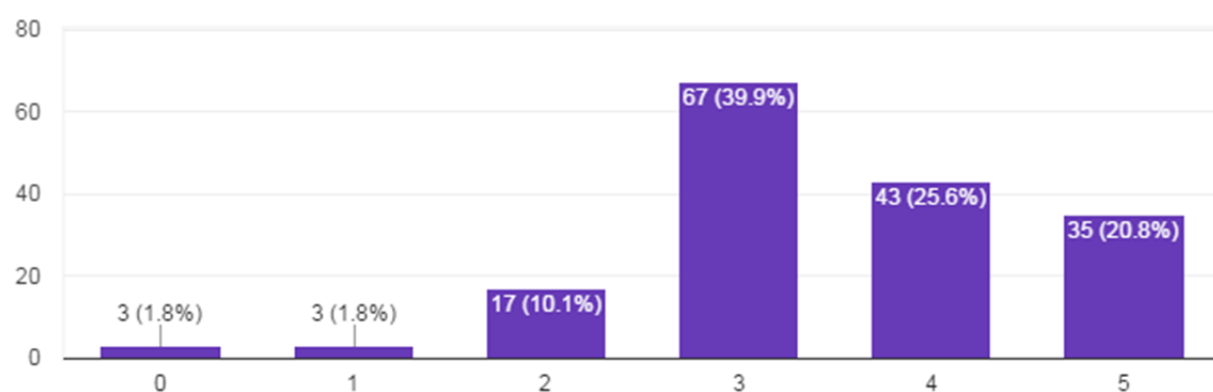
168 件の回答



23) BYODの環境になり、以下の4つの点について効果的であると感じていますか。

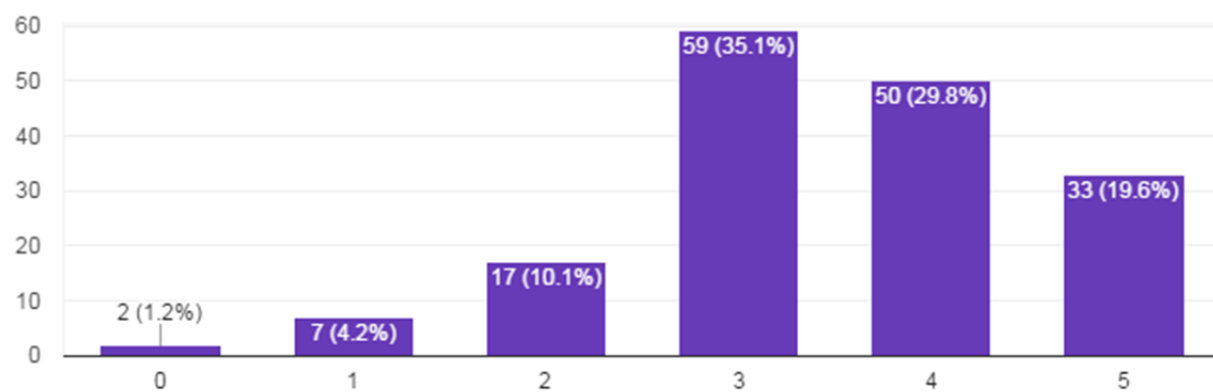
168 件の回答

a) 授業での活用

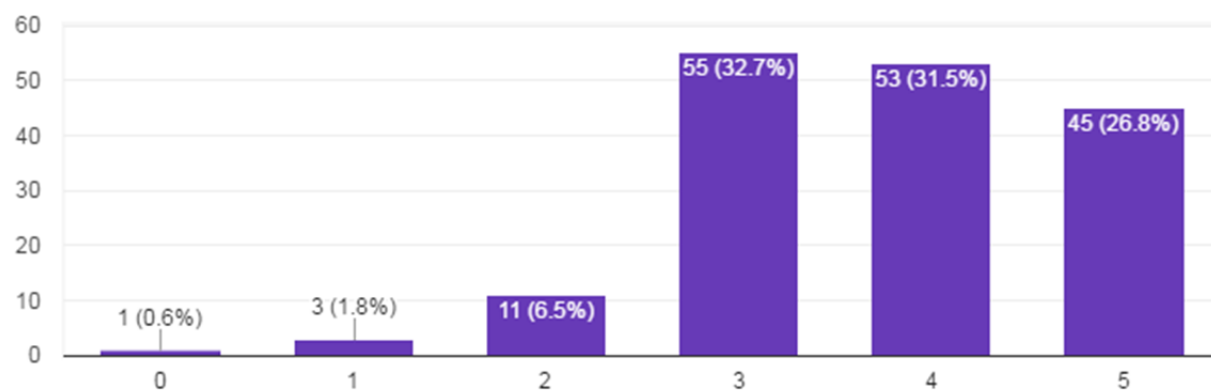


168 件の回答

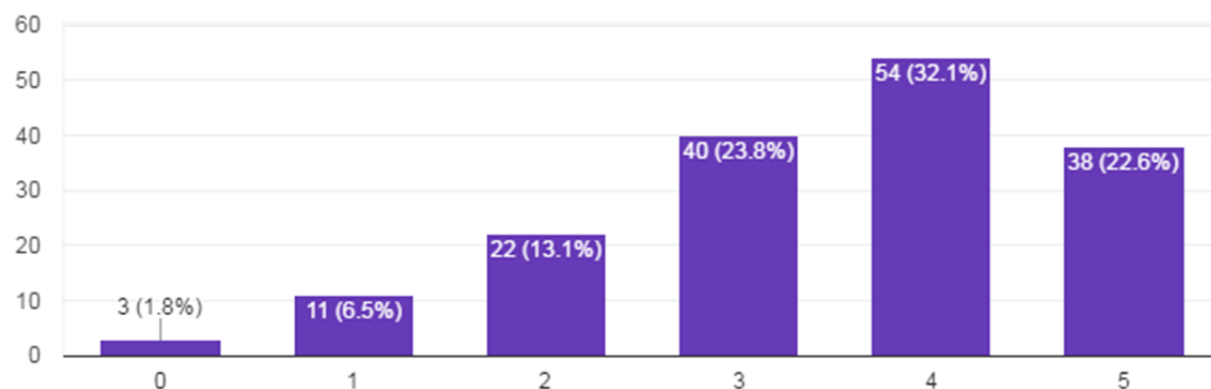
b) 授業以外の学校活動



168 件の回答 c) 学校とは別の個人的な活用

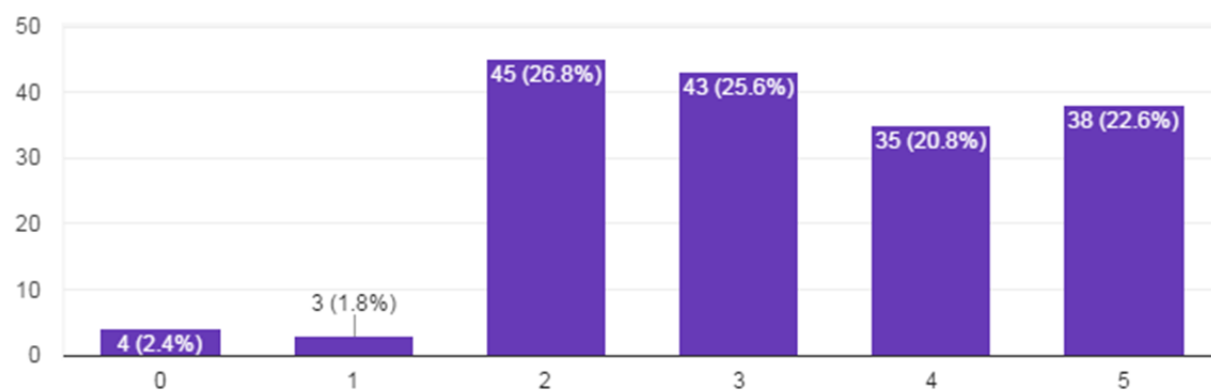


168 件の回答 d) 資料の配信などで、紙の使用量削減



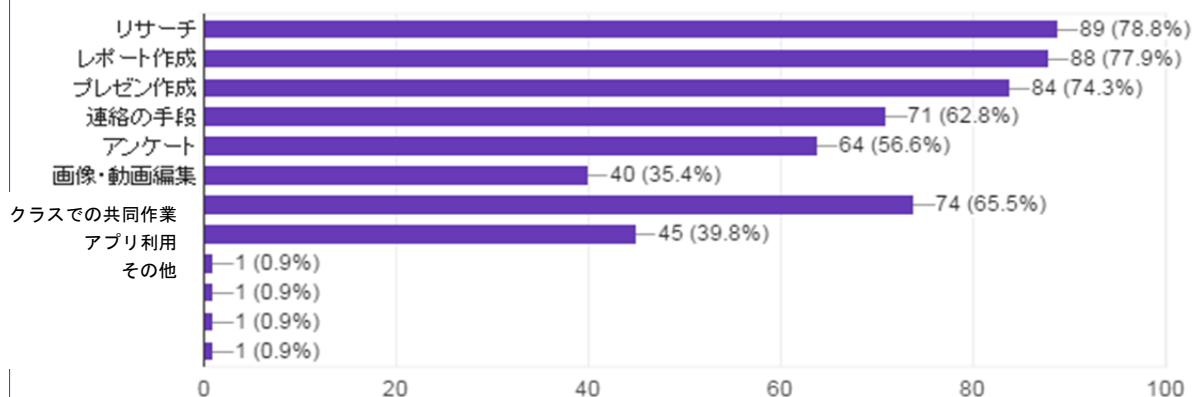
24) 教員に今よりもっとICTを活用してほしいと思いますか。

168 件の回答



25) 24でYESと答えた人、その活用法としてあてはまるものにいくつでもチェックしてください

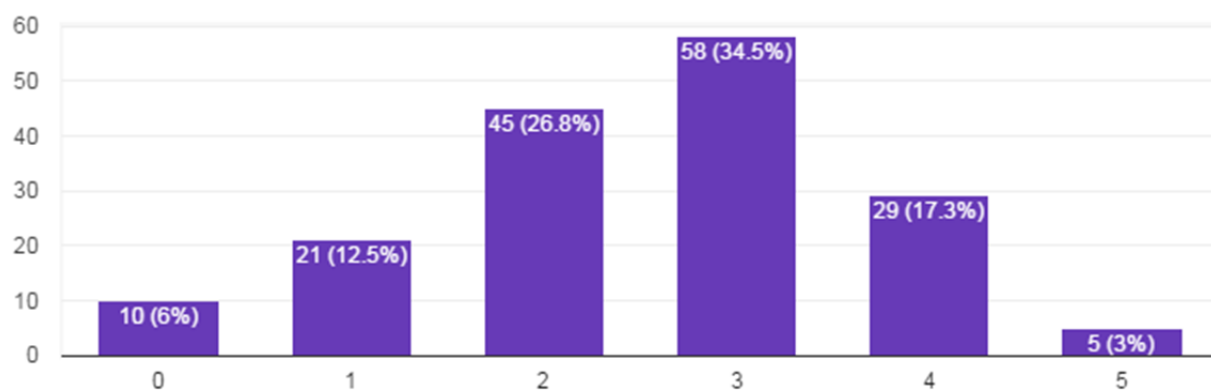
113 件の回答



進路

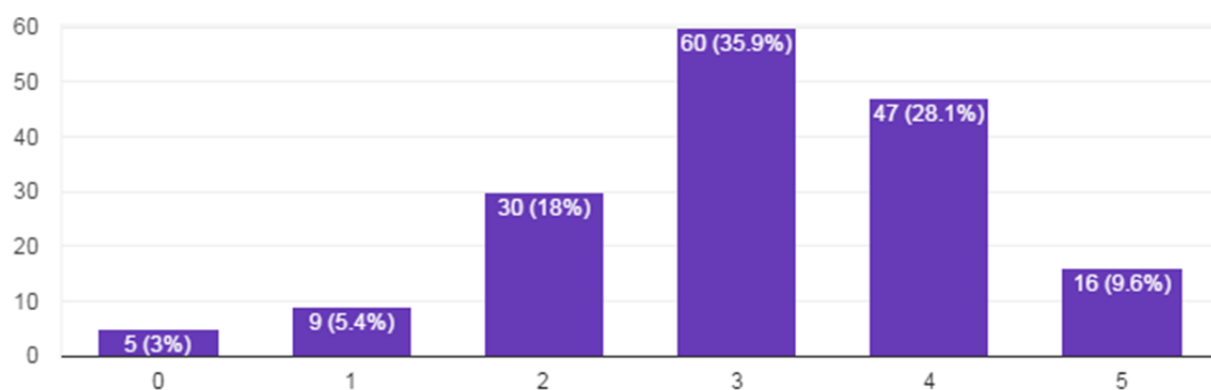
26) 国内の進路先に関する情報についての情報が、十分に収集・公開・提供されている

168 件の回答



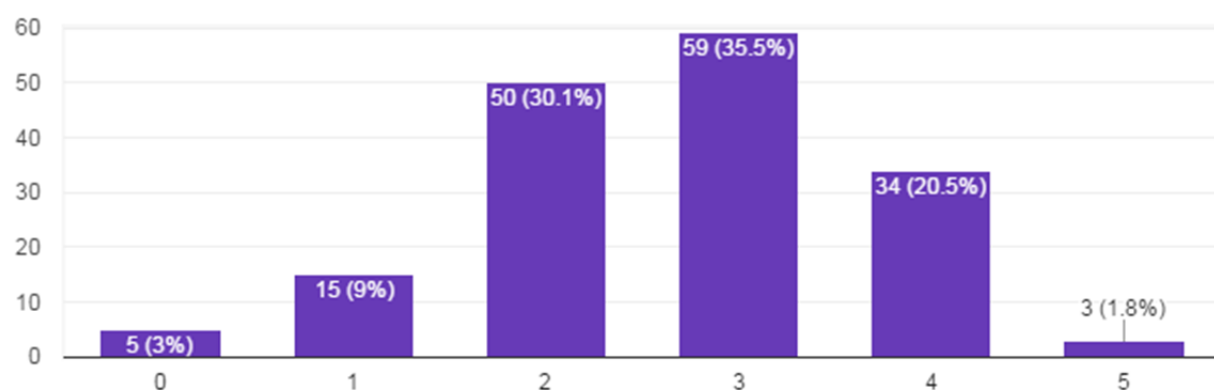
27) 関西学院大学についての情報が、十分に収集・公開・提供されている。

167 件の回答



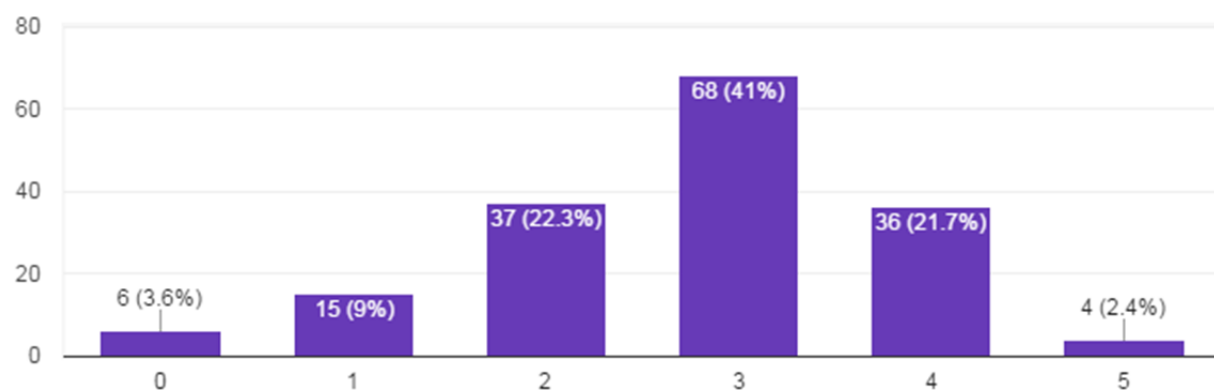
28) 海外の進学先についての情報が、十分に収集・公開・提供されている。

166 件の回答



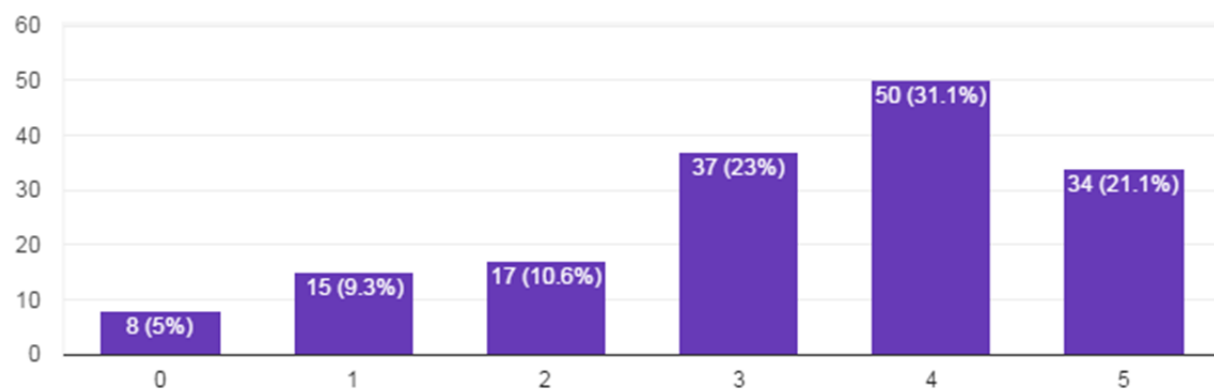
29) 進路ガイダンスや個別の進路相談の機会が提供されている。

166 件の回答



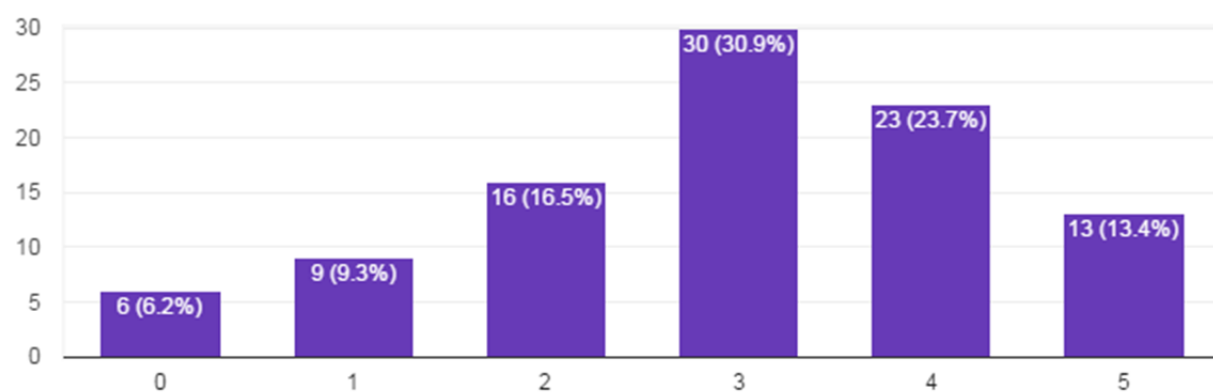
30) 10年生の秋に大学に行って授業に参加する機会には有意義であった

161 件の回答



31) 11年生の秋に参加した学部選択説明会は有意義であった

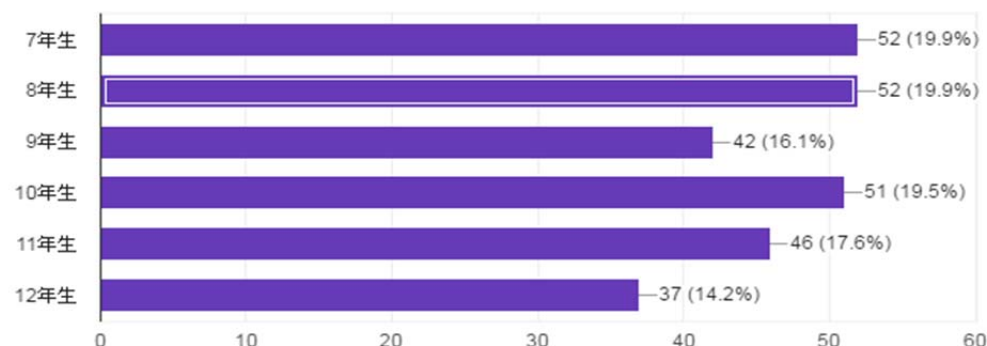
97 件の回答



2017年度関西学院千里国際中等部・高等部学校評価 保護者アンケート (回収率53.6% 261人/487人中)

お子様の学年をお教えてください

261 件の回答

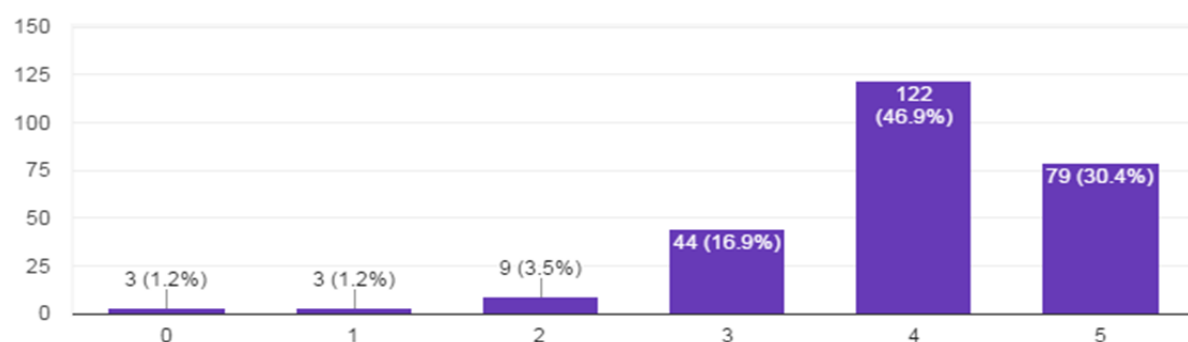


0 : 全くそう思わない
1
2
3
4
5 : 強くそう思う

学校生活・学習について

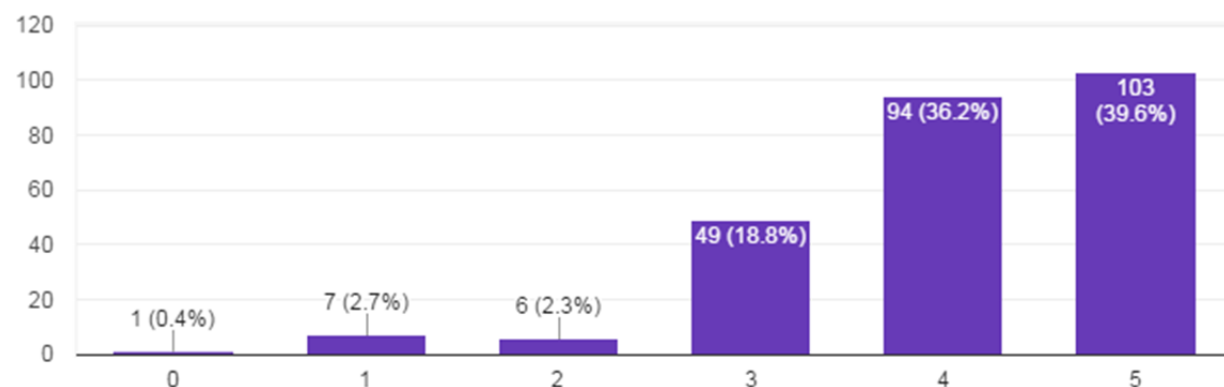
1) 生徒は学校で自分らしく過ごしている。

260 件の回答



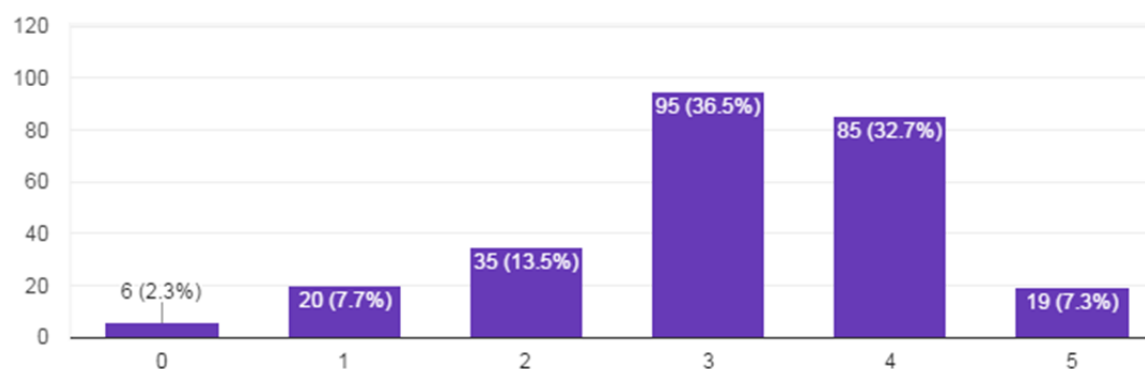
2) SISに入学させてよかった。

260 件の回答



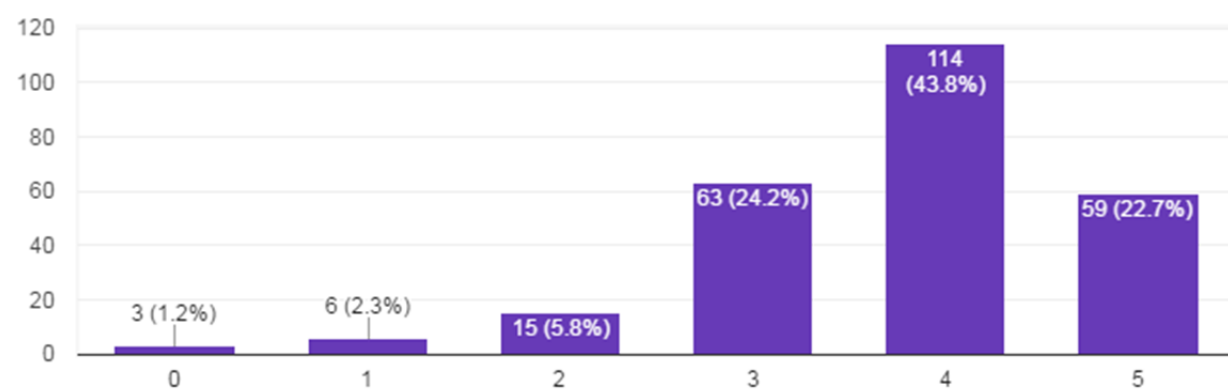
3) 学費に見合う教育を受けていると感じる。

260 件の回答



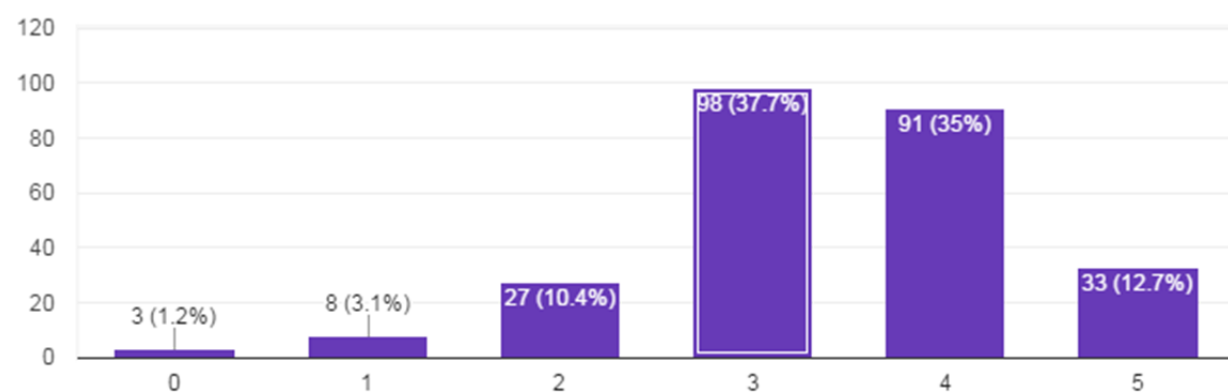
4) 生徒は学校での授業を全体的に楽しく取り組んでいる

260 件の回答



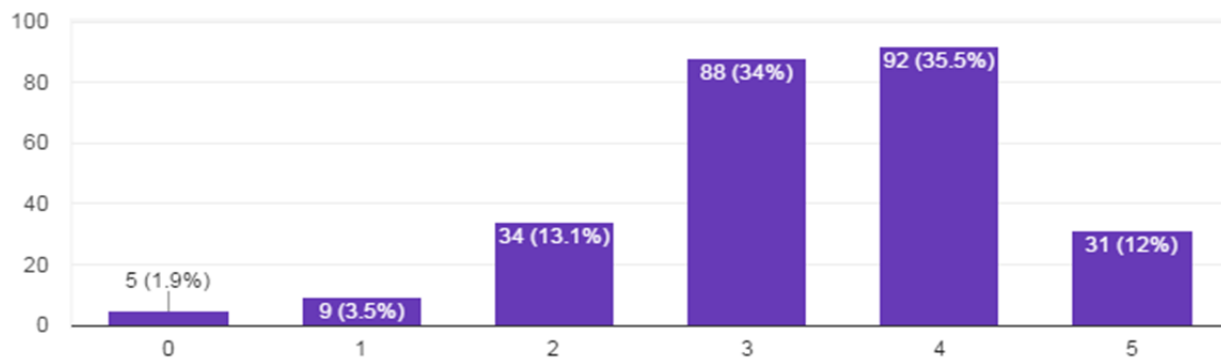
5) 生徒の学習する力が伸びていると感じる

260 件の回答



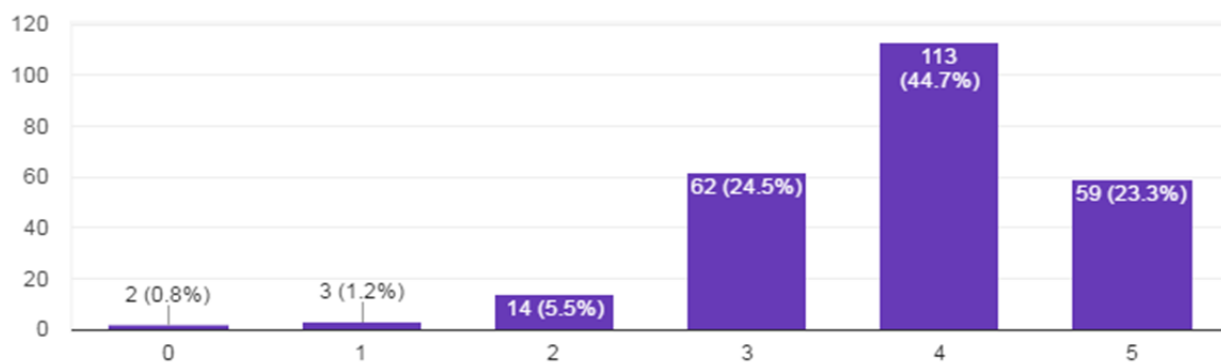
6) 授業の進め方や成績のつけ方などについての情報をしっかり受けていると感じる

259 件の回答



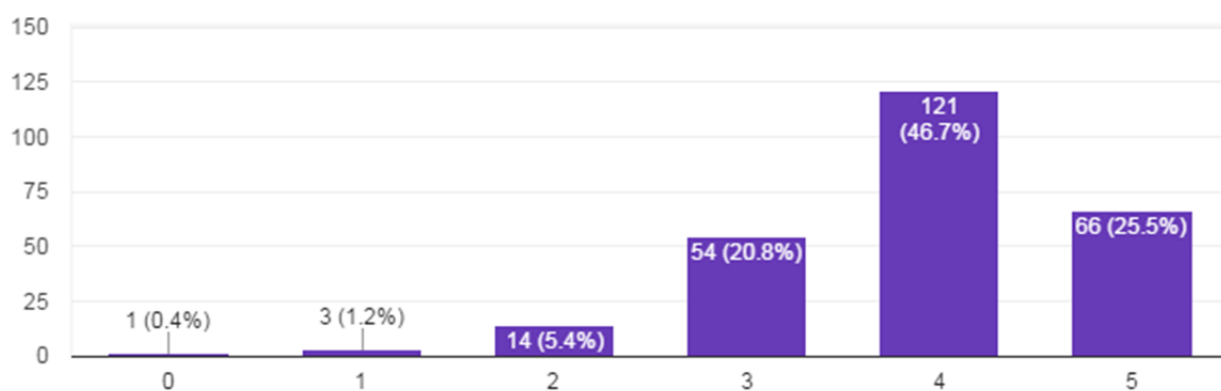
7) 高校生になると、授業を選択し生徒が自分で時間割を作成するというシステムに満足している

253 件の回答



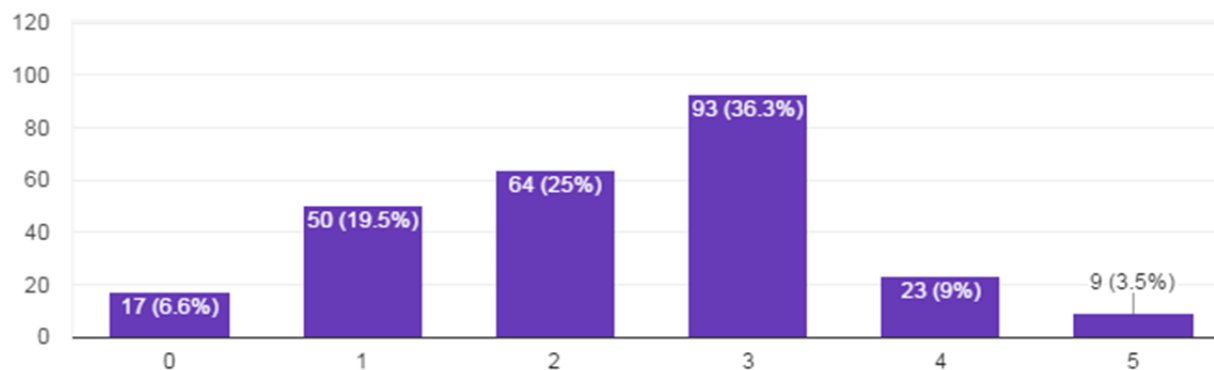
8) 生徒はリサーチの仕方やプレゼンテーションについて楽しく意義のある学びをしている

259 件の回答



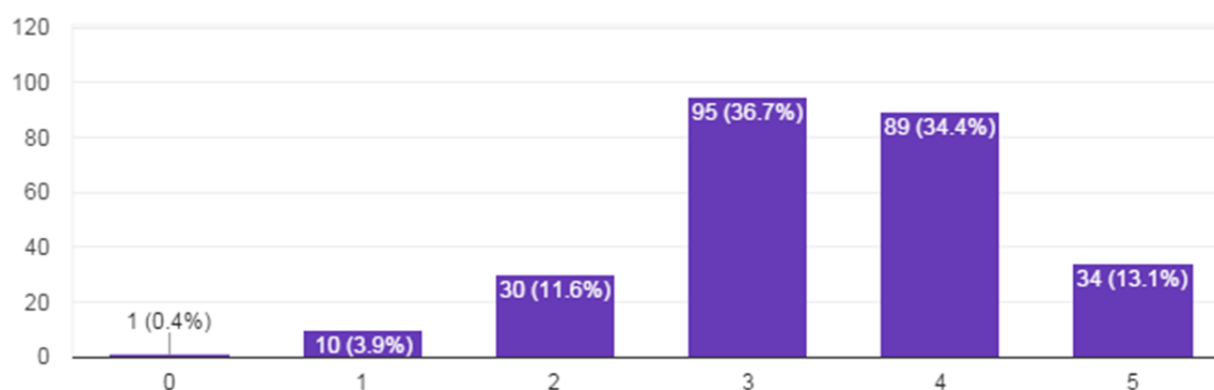
9) OIS保護者との基本的な信頼関係や交流が十分にある

256 件の回答

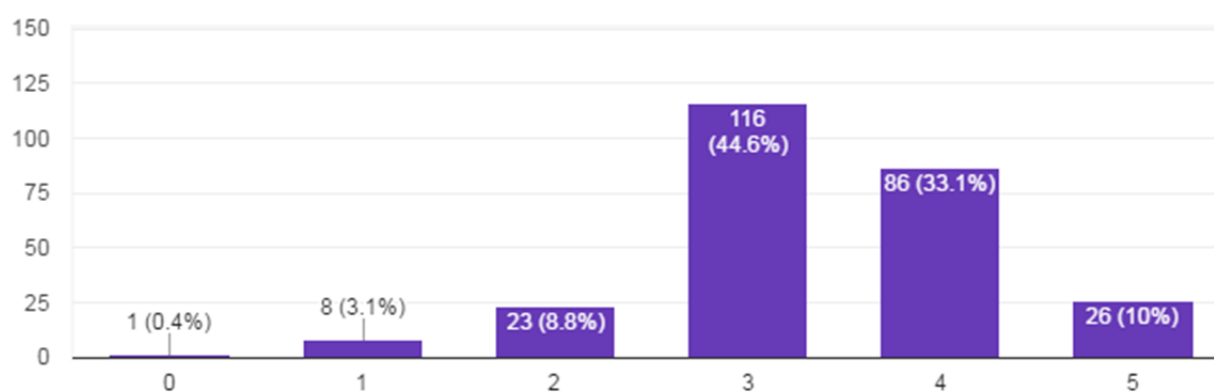


10) SISとOISは、よりよい国際教育を目指す上で相互により効果をもたらしている

259 件の回答

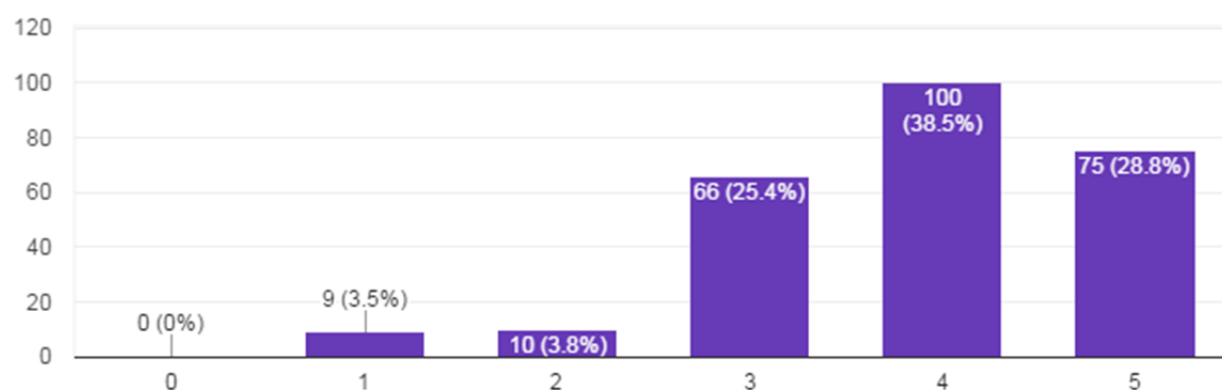


1 1) SISはOISと共有するスクールミッションである「知識と思いやりを持ち、創造力を駆使して世界に貢献する個人」を育てている。



12) 生徒にとって、OIS生徒との交流があることが意義ある体験となっている。

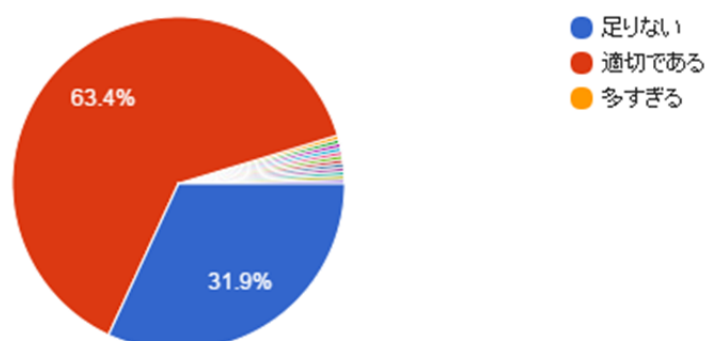
260 件の回答



生徒活動・国際交流

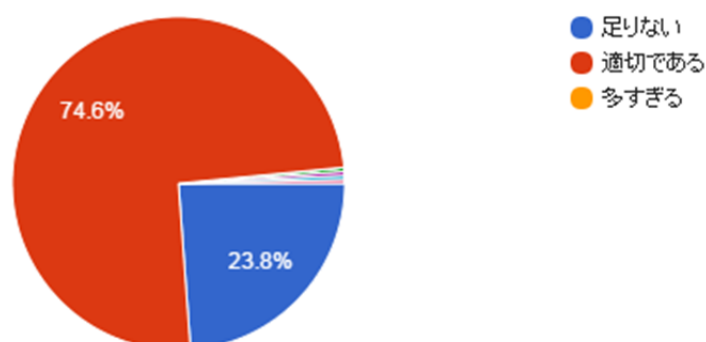
13) SISが提供している授業外の活動（クラブなど）の機会は適切なものである

257 件の回答

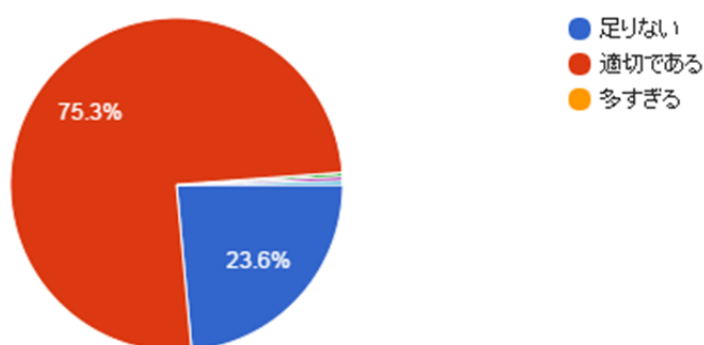


14) 様々な活動やイベントについての情報の量は適切である

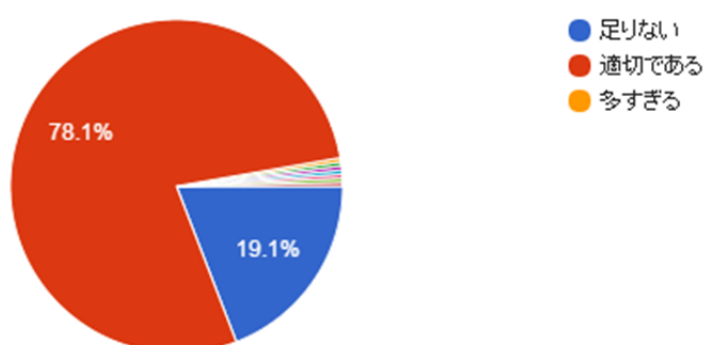
260 件の回答



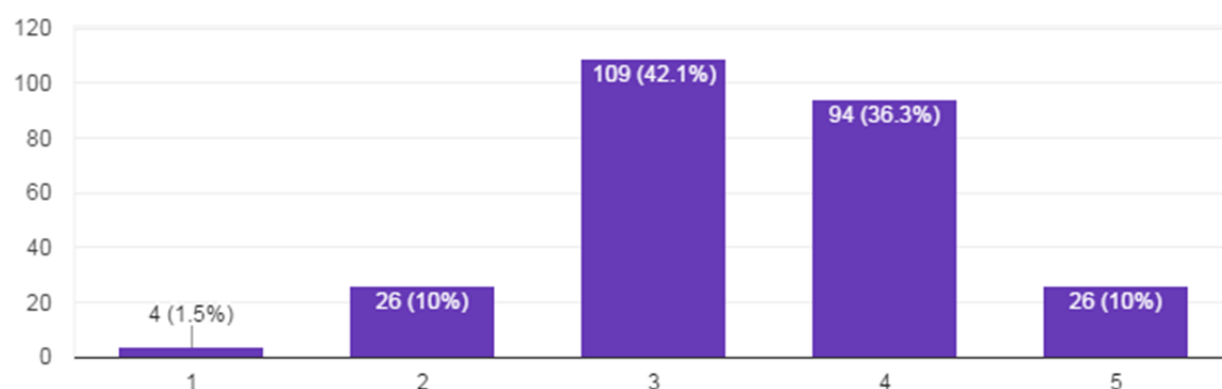
15) 夏休み期間中の活動(キャンプ、フィールドスタディ、その他)や学外活動の案内は充実している
259 件の回答



16) SISでは、国際的な視野が広がるプログラムが十分用意・紹介されている
256 件の回答

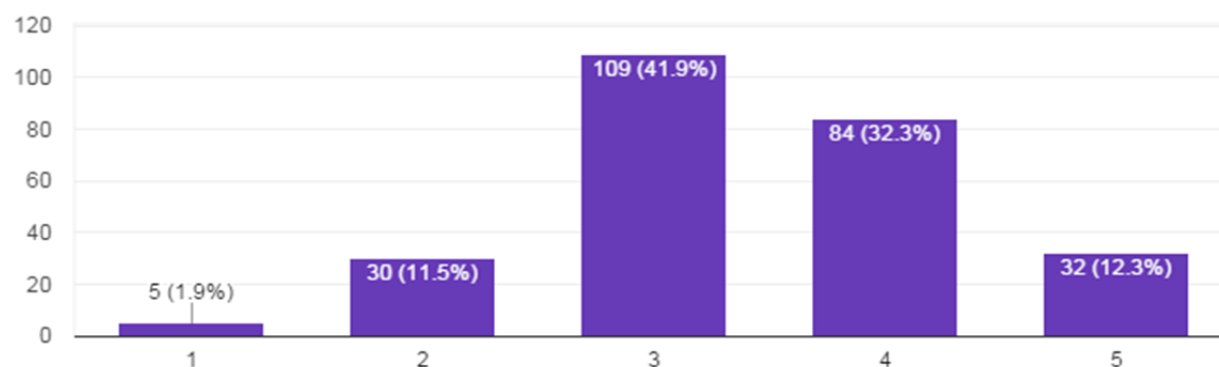


17) SISでは、生徒は授業や授業外活動を通じて、地球市民として生きていることを意識する機会が多くある
259 件の回答



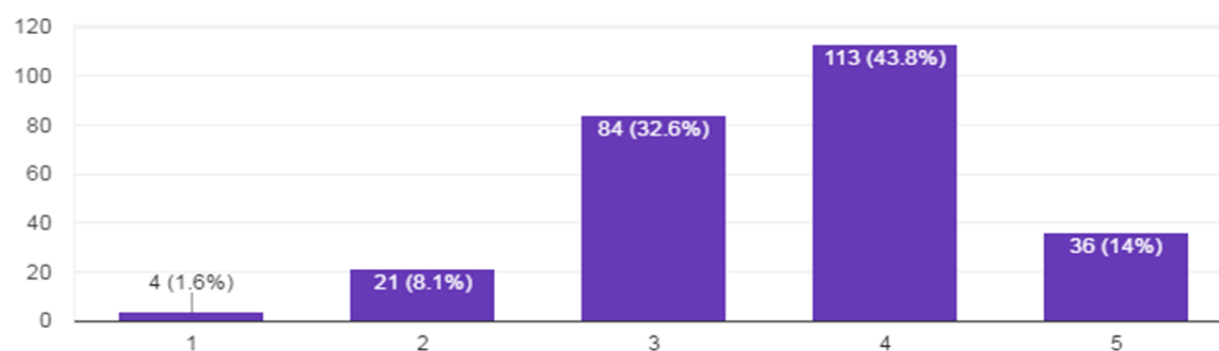
18) 生徒は、地球規模で物事を考える力が伸びている

260 件の回答



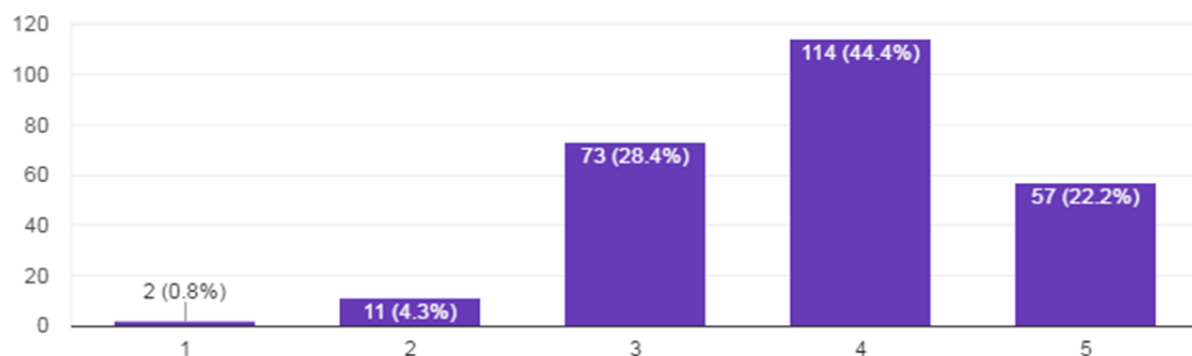
デジタル環境

19) 生徒は、学校でICT機器（コンピューター、タブレット、インターネットなど）の使用やそのサポートが十分にある環境にある

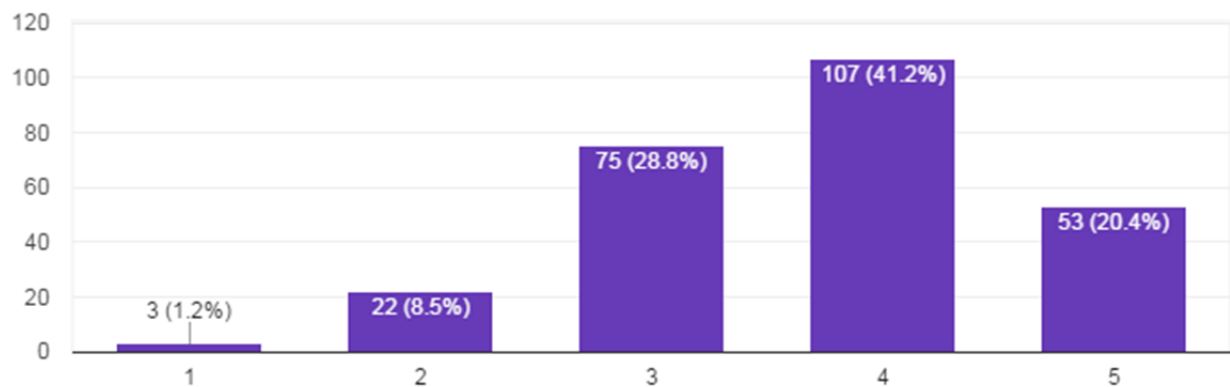


20) 生徒は、授業を通じてICTの技術が向上している。

257 件の回答

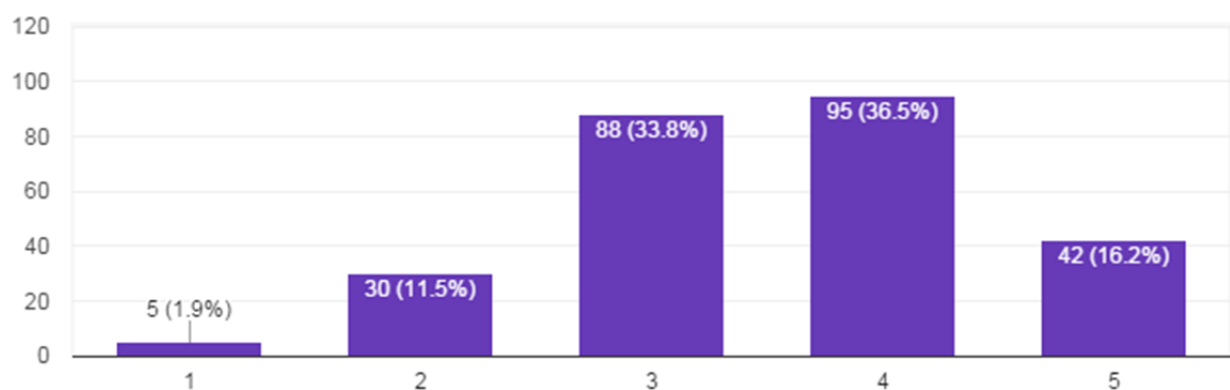


2 1) 生徒は、ICT機器やインターネット(携帯電話・スマートフォンを含む)を使うときに気を付けるべきこと(犯罪行為、いじめなど)についてよくわかっている



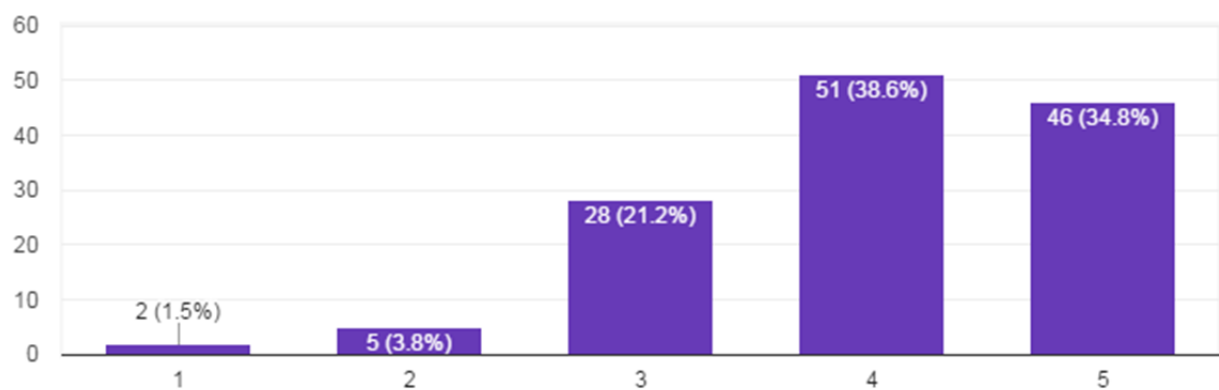
22) 生徒は、ネットワーク上で個人情報を守る方法について理解・実践している。

260 件の回答



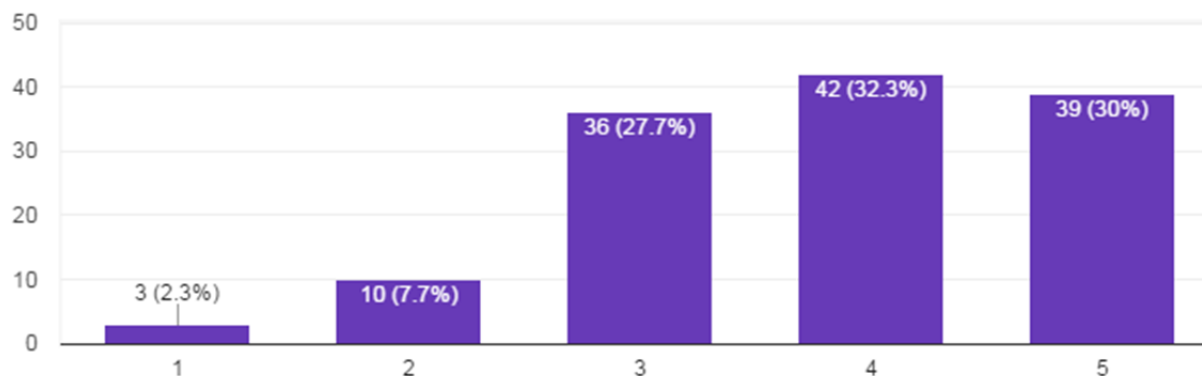
2 3) (高校生の保護者のみお答えください) 生徒は自分のデバイスを学習に有効に活用している

132 件の回答



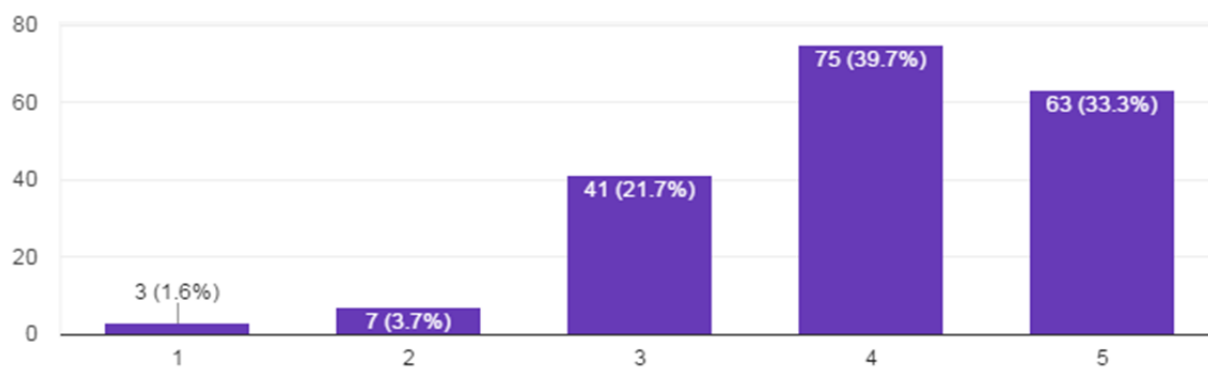
2 4) (高校生の保護者のみお答えください) 生徒は自律心を持って自分のデバイスを役立てている

130 件の回答



2 5) BYOD (高校生はパソコン等のデバイスを個人で学校に持ち込む) という学校の方針を理解・共感している

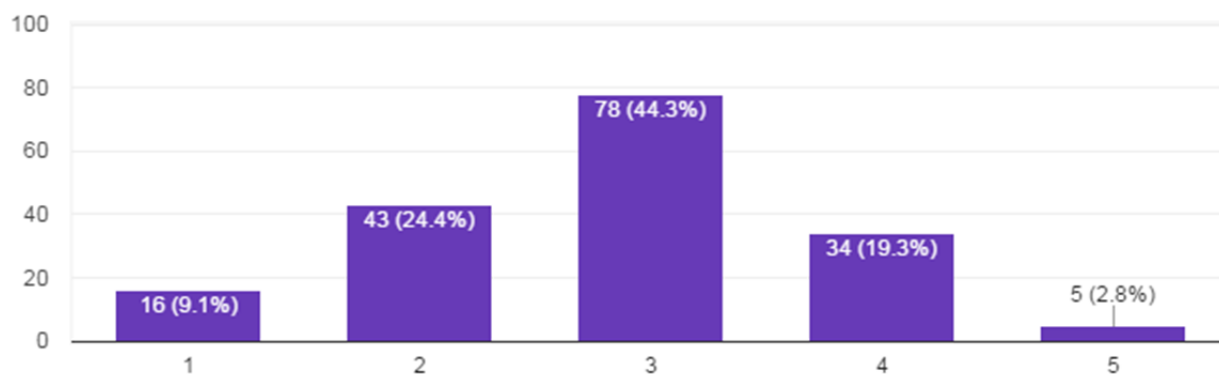
189 件の回答



進路

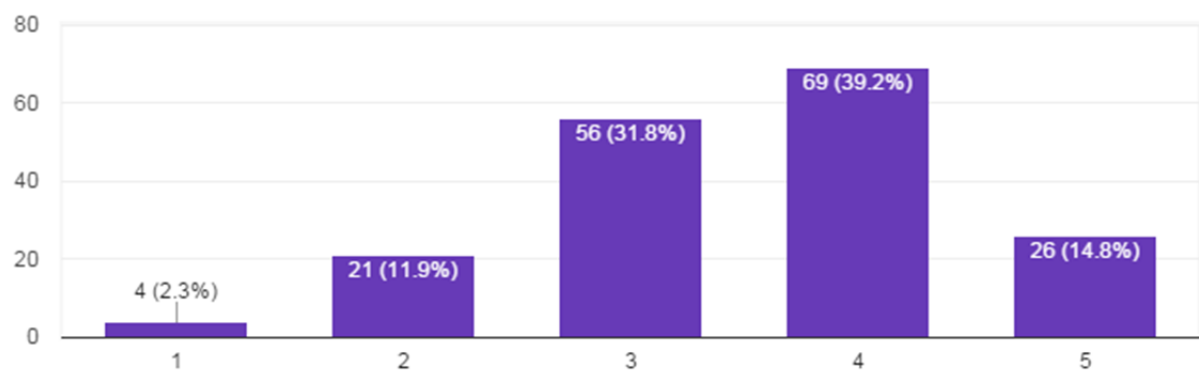
26) 国内の進路先についての豊富な情報が収集・公開・提供されている

176 件の回答



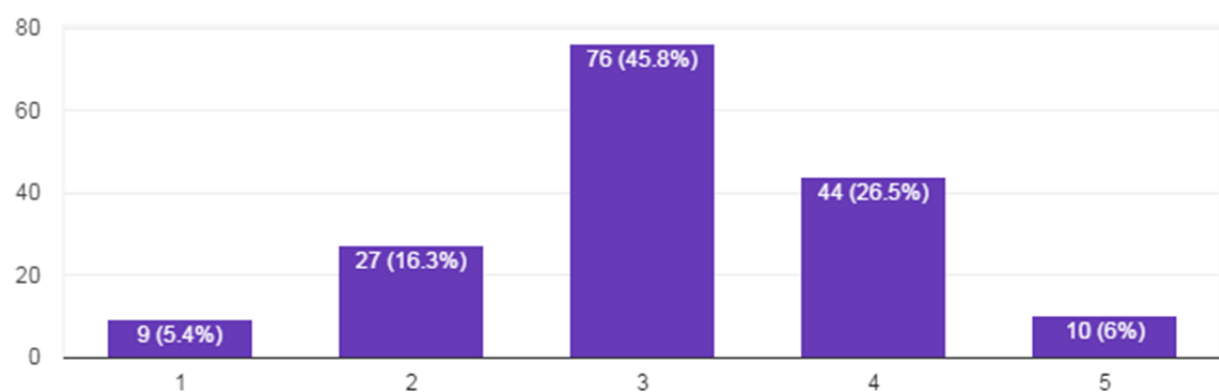
27) 関西学院大学についての豊富な情報が収集・公開・提供されている

176 件の回答



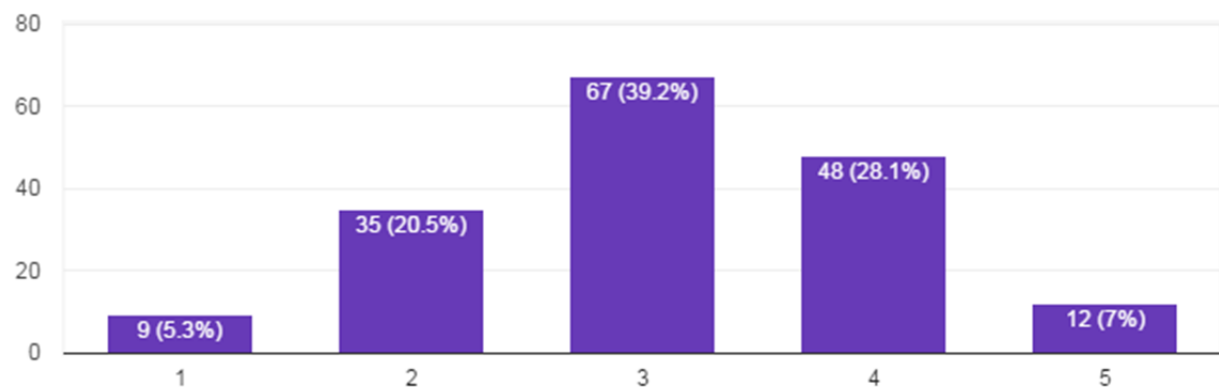
28) 海外の進学先についての豊富な情報が収集・公開・提供されている

166 件の回答



29) 生徒本人の意向を尊重した、十分な進路ガイダンスと個別の進路相談の機会が提供されている

171 件の回答



2017年度関西学院千里国際中等部・高等部学校評価 教員アンケート
(回収率55.4% 36人/65人中)

0 : 全くそう思わない

1

2

3

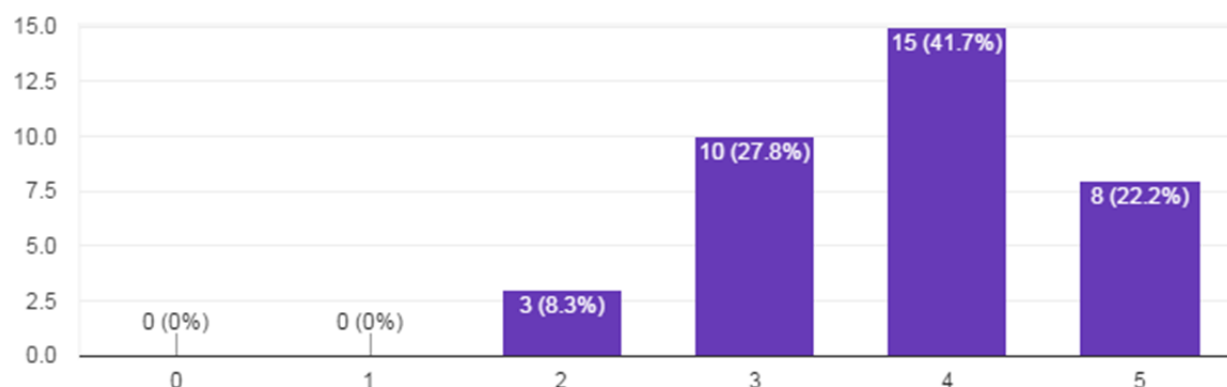
4

5 : 強く思う

全般 General

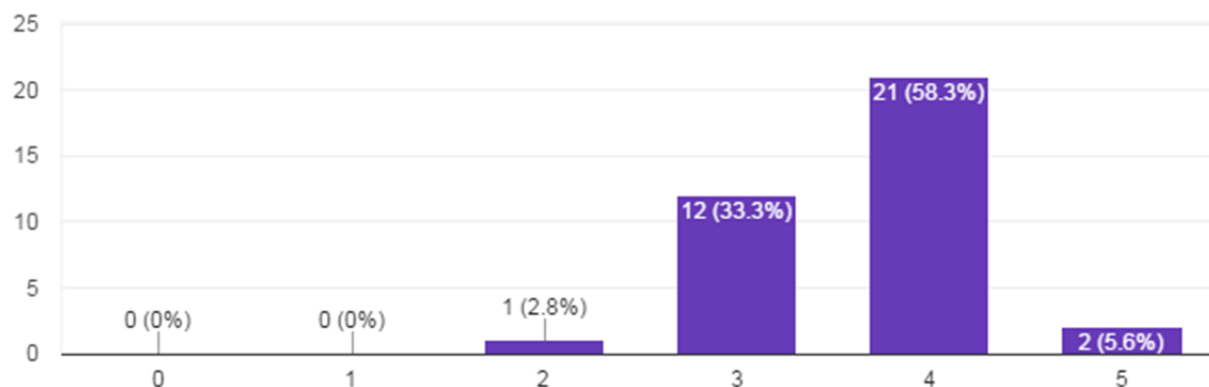
1) 自分は教員として充実した気持ちで教育活動に取り組んでいる。As a teacher, I am approaching educational activities with positive enthusiasm.

36 件の回答



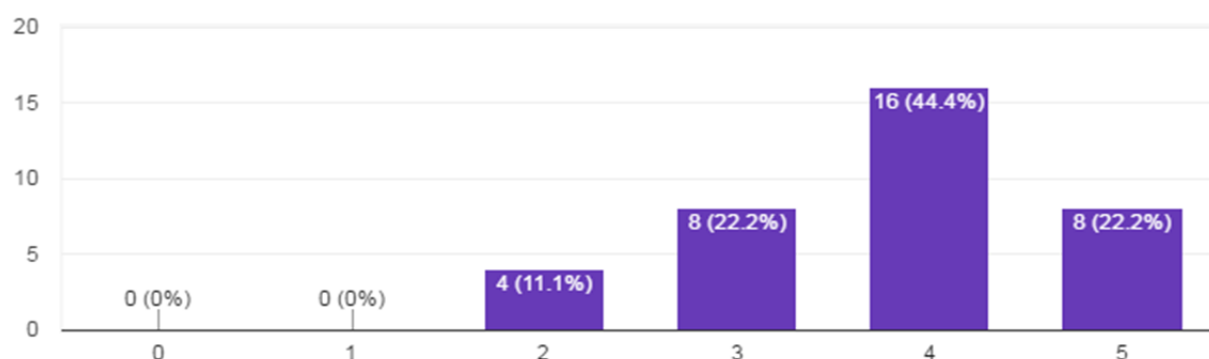
2) 生徒・卒業生や保護者のSISに対する満足度は高いと思う。I think students, graduates and parents have a high level of satisfaction with the school.

36 件の回答



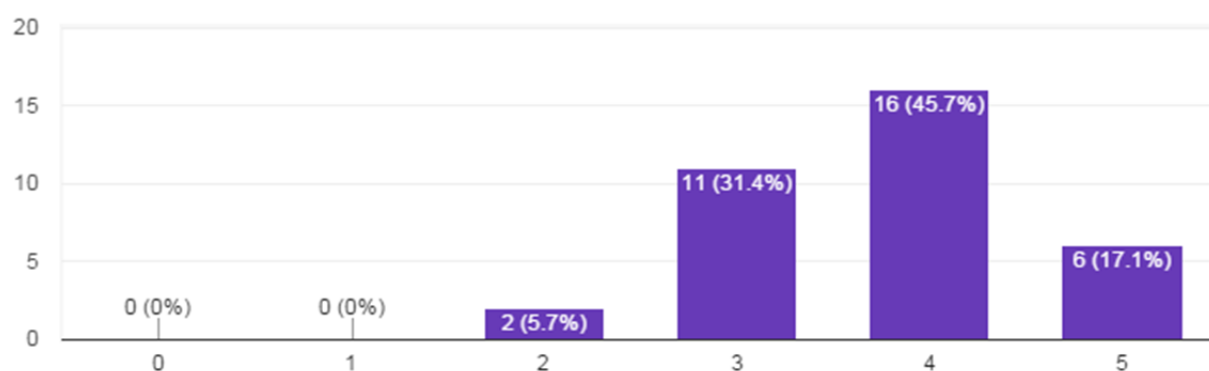
3) 少人数の授業環境を活かし、生徒ひとりひとりの状況を把握することが出来ている。I make the most of the small-group educational environment and am able to recognize each student's academic state.

36 件の回答



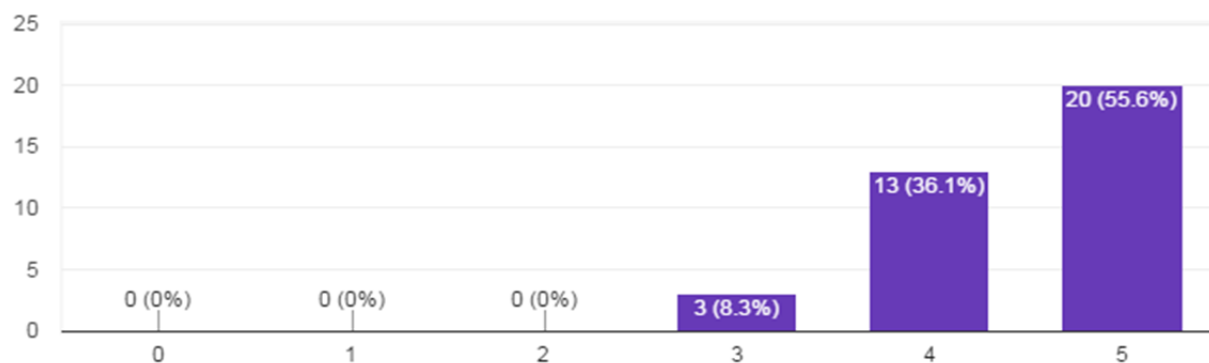
4) 質の高い授業を目指し、教材研究や教授法の研究、授業研究を十分に行っている。I aim for quality lessons and conduct careful preparation of lessons to that end.

35 件の回答



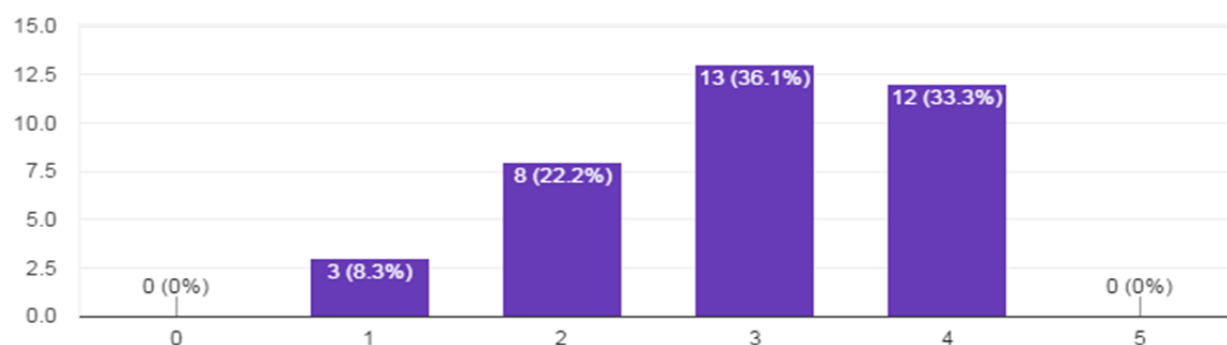
5) 授業のすすめかた・成績のつけ方等を、授業開始時に説明している。I explain the overall lesson approach and grading standards to students at the beginning of each course.

36 件の回答

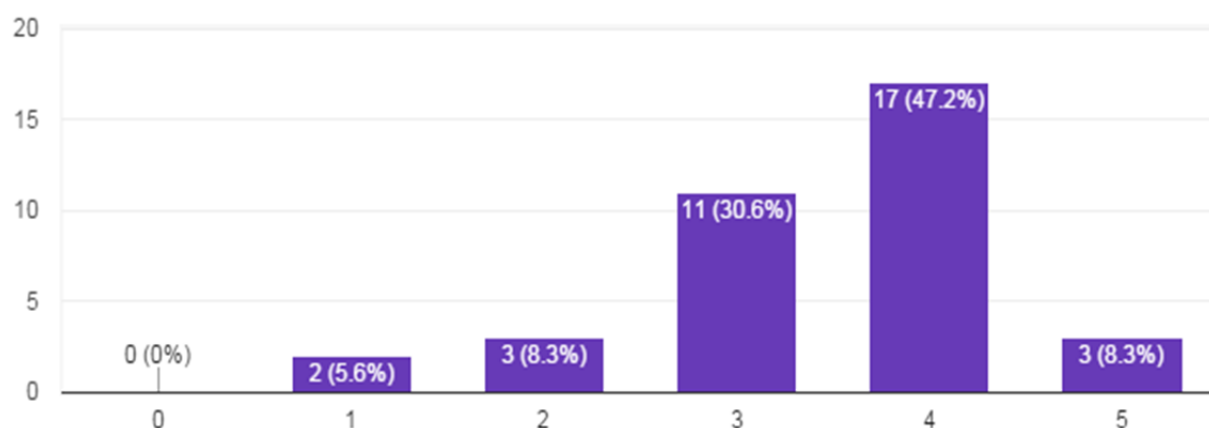


6) 授業を選択し、生徒が自分で時間割を作成するシステムは有効に機能している。 The system whereby students choose their own classes to create their schedules is functioning effectively.

36 件の回答

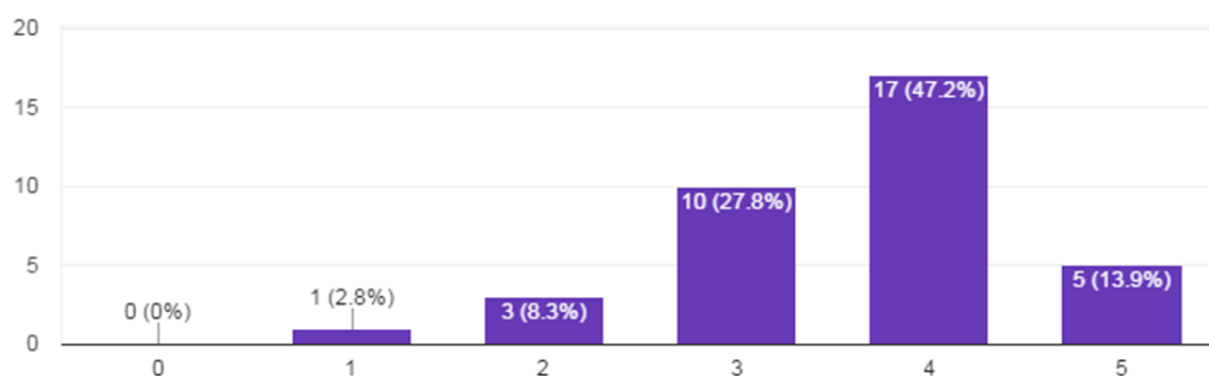


7) SGHプログラムが、生徒の探究型学び、本物に触れる機会、発表の機会の拡大などにつながっていることを実感している I feel that the SGH program is giving increased opportunity for authentic, inquiry based learning and presentations.



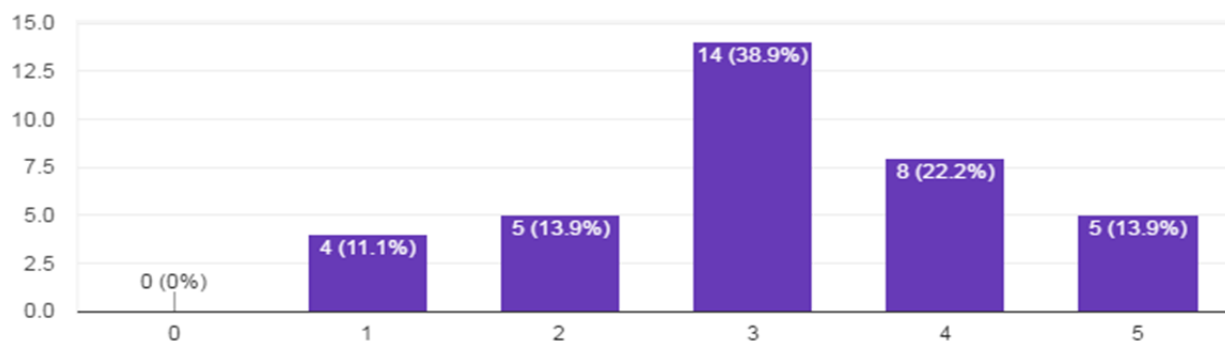
8) アカデミック・オネスティについての指導を授業などで生徒にしている I am giving enough information about Academic Honesty to my students

36 件の回答

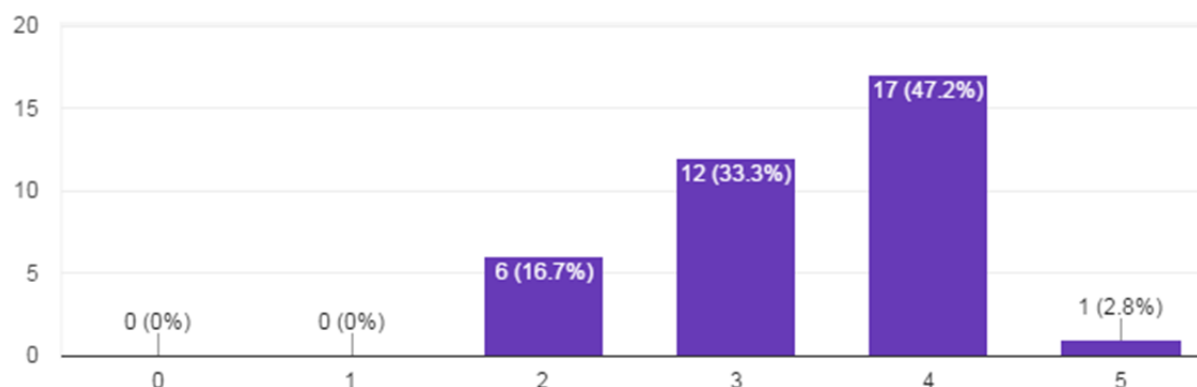


9) OISの教員や生徒との交流が日常的に行われている。I interact with faculty and students of OIS on a daily basis.

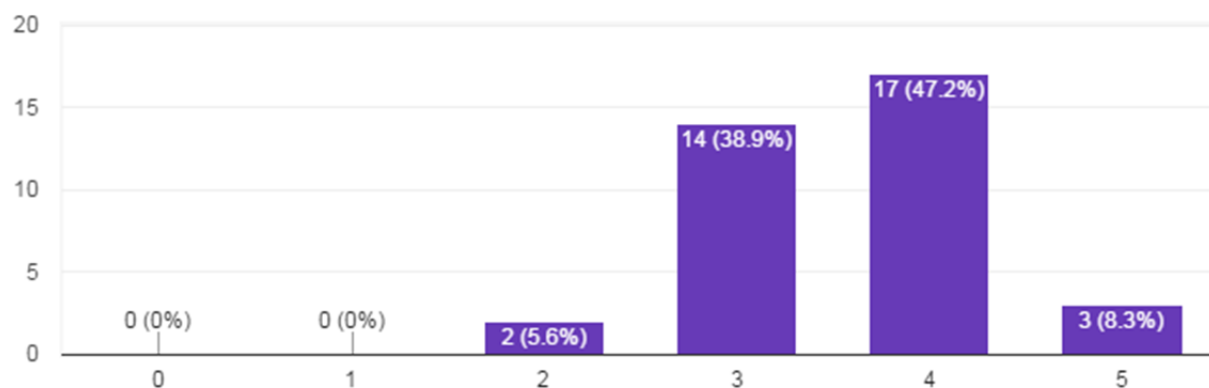
36 件の回答



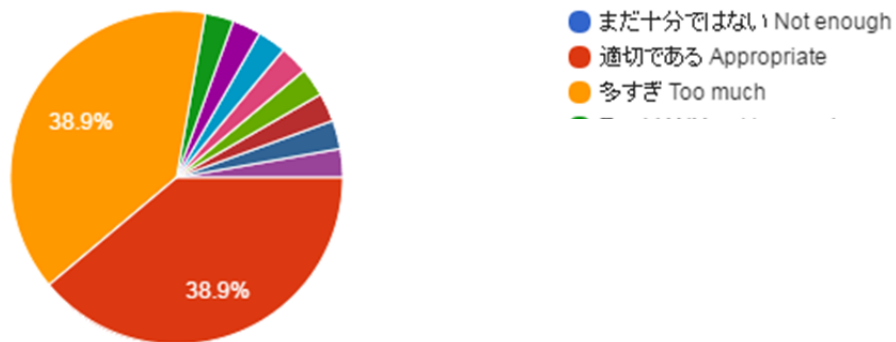
10) SISとOISは、よりよい国際教育を目指す上で、相互により効果をもたらしている。SIS and OIS complement each other in a way that, aims to improve international education and achieves effective results for both schools.



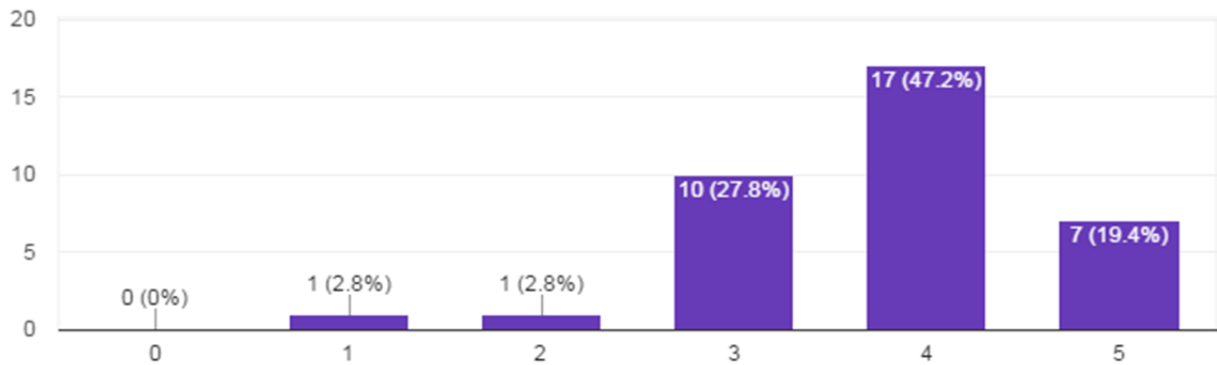
11) SISは「知識と持ち思いやりを持ち創造性を駆使して世界に貢献する個人」を育てている。SIS works to promote the shared mission of developing "Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community".



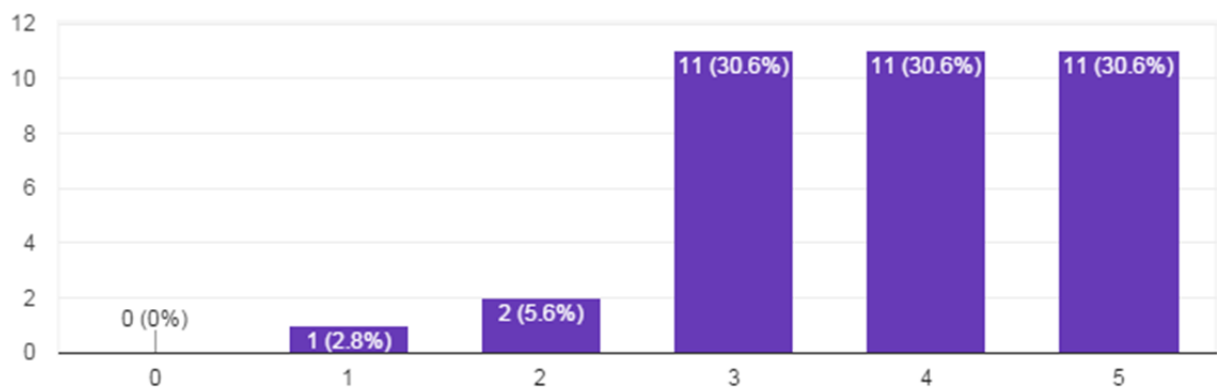
1 2) SISが提供している授業外の活動（クラブなど）の機会は適切なものである。Opportunities for extra-curricular activities (clubs, etc) provided by SIS are appropriate.



1 3) SISは、キャンプや遠足などの体験学習により、生徒の自主性、創意工夫や協力する心を養っている。At SIS student independence, creativity and cooperative spirit are encouraged through camps, trips and hands-on learning experiences.

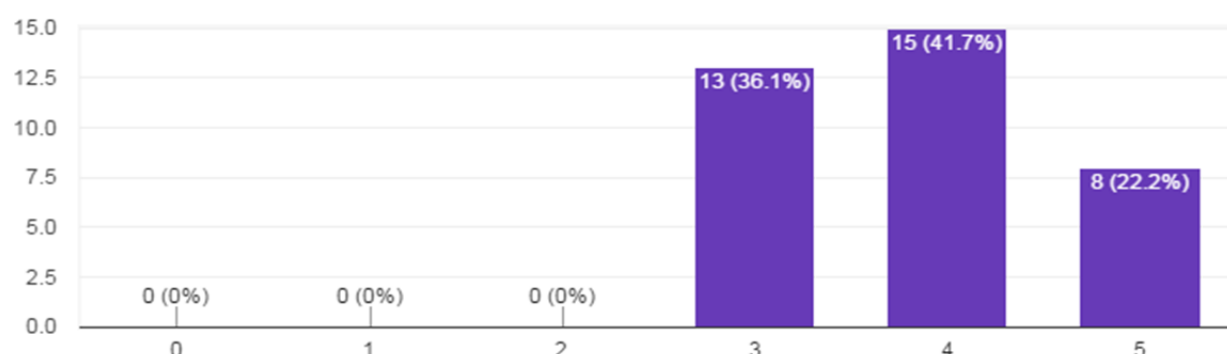


14) 夏休み期間中の活動（キャンプやフィールドスタディ）は充実した教育活動である。Programs provided by school for summer such as camps and field studies are educationally significant.

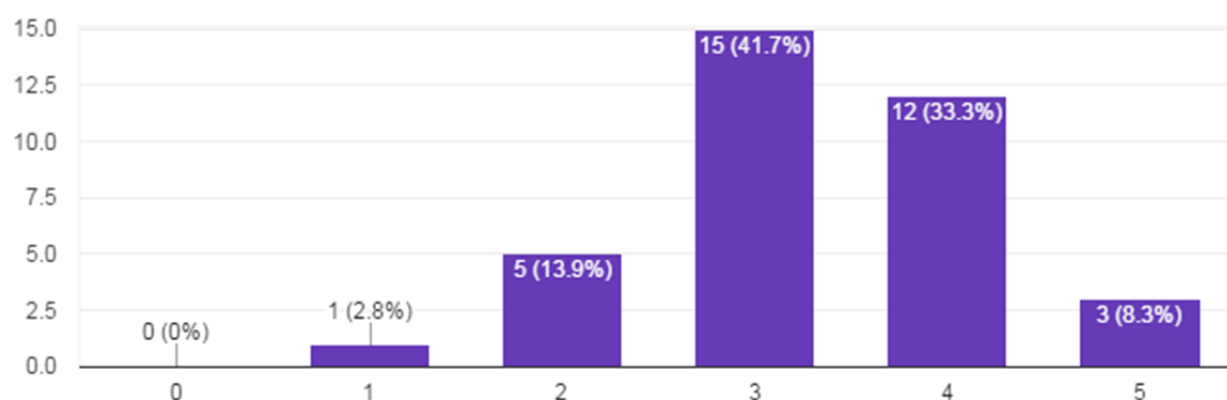


15)国際的な視野が広がるプログラムが十分用意・紹介されている SIS provides and introduces programmes with a wide international perspective.

36 件の回答

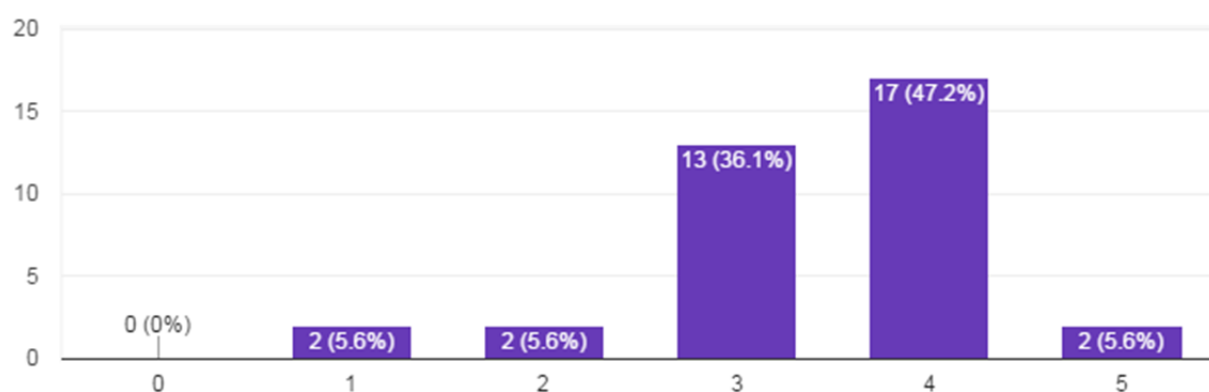


16) 私は、授業やホームルームを通じて生徒に、世界市民として生きていることを実感できる機会を与えている Through lessons and homewroom I provide students with real opportunities to give them the sense that they are living as a global citizen.



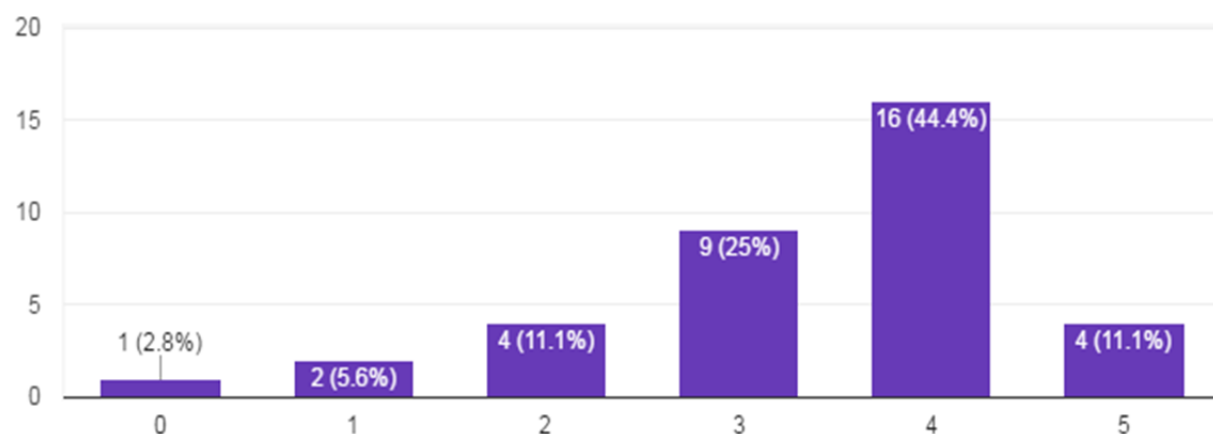
17) 生徒は、地球規模で物事を考える力が伸びている Students are developing the ability to think about things from a global perspective.

36 件の回答



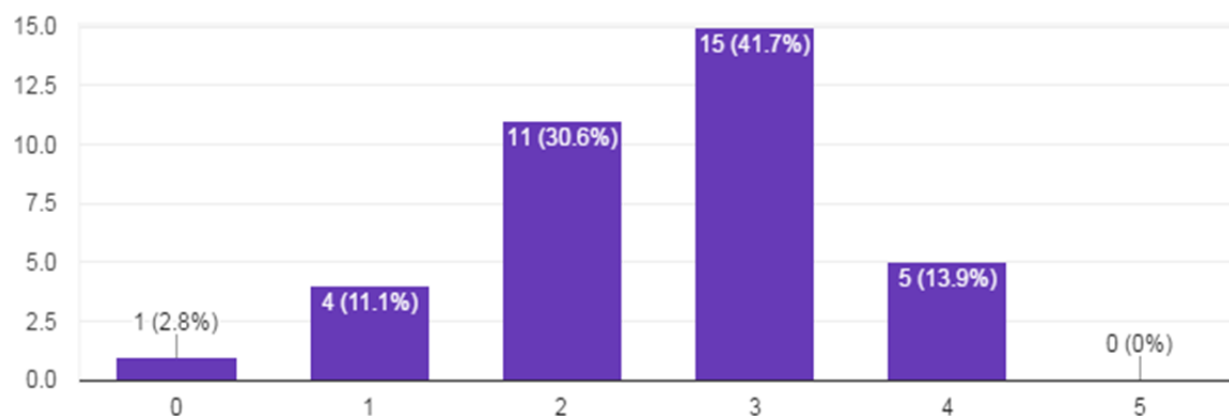
18) 授業でICTを効果的に取り入れている。I am making effective use of ICT technology in my classes.

36 件の回答

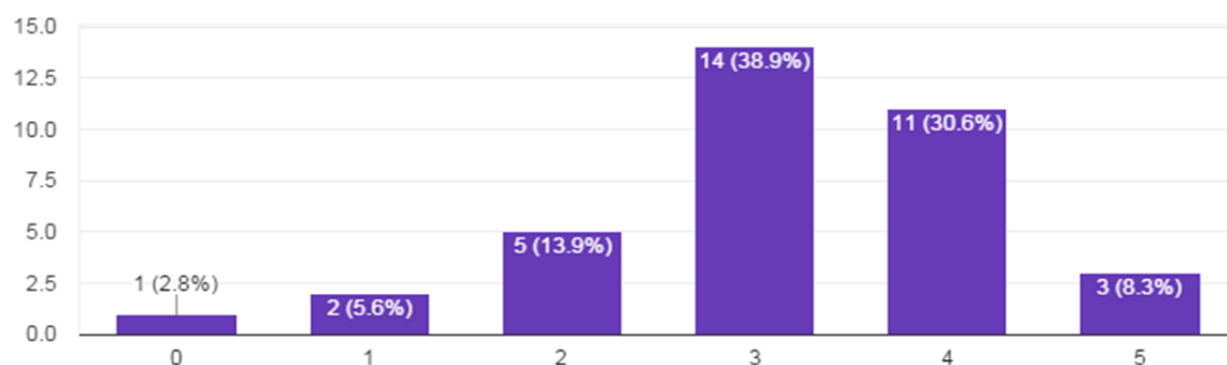


19) 生徒は、ネット上での個人情報の守り方を熟知している。Students are familiar with ways of protecting their personal information on-line.

36 件の回答

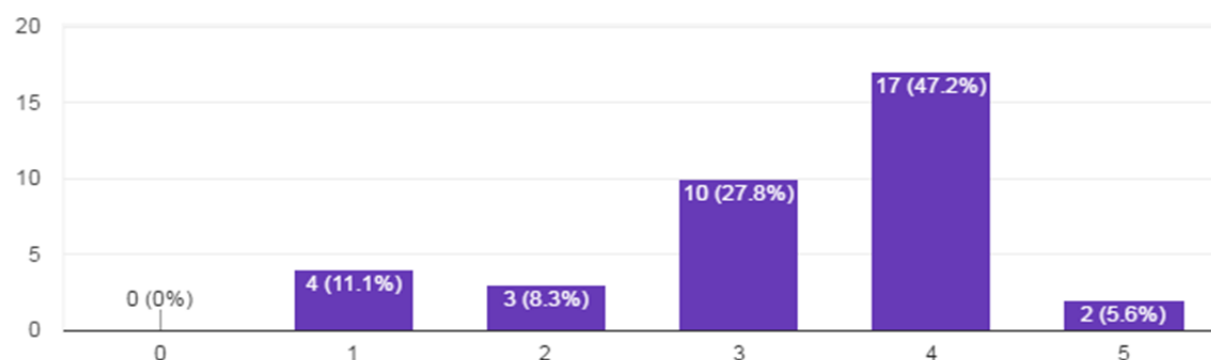


20) iPad導入5年を経て BYODを導入して1年目、教科の授業・課外活動などでの活用が定着している。This year was the first years of BYOD, their use in the classroom, in extra curricular activities, etc is now well established.

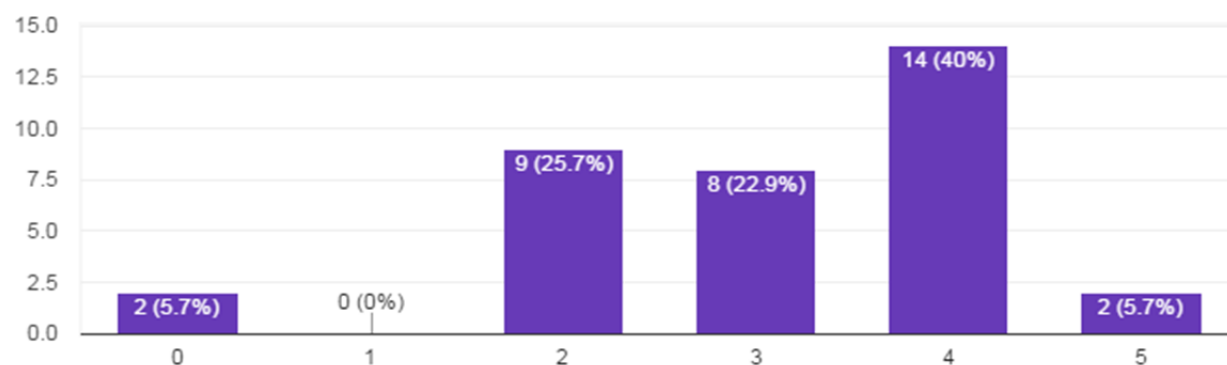


21) 校内のWiFiシステムは有効に機能しているIs WiFi fit for purpose?

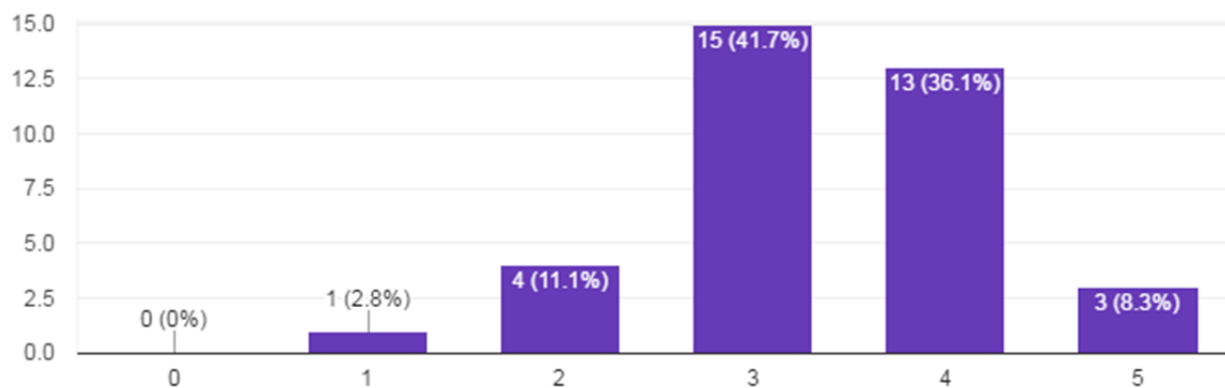
36 件の回答



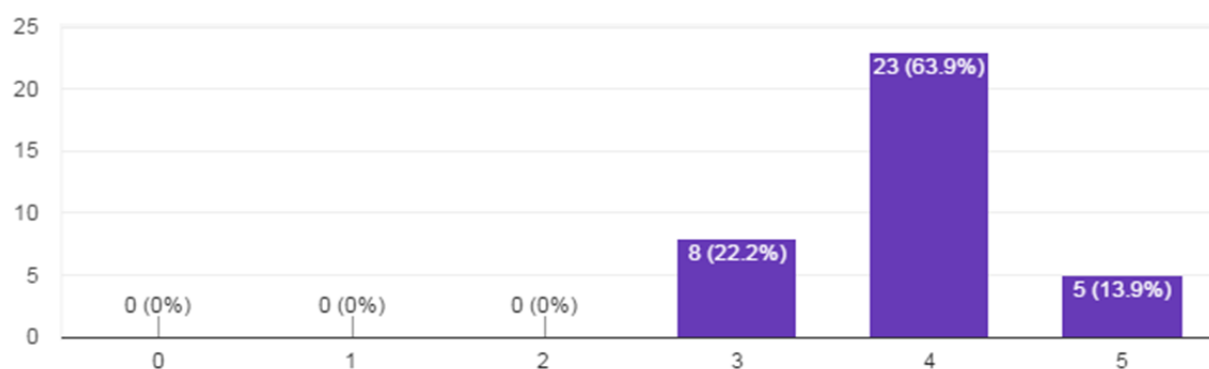
22) BYODの体制で、生徒が違った機器を学校に持ち込むが、その状況でもICTを活用していける準備が整っている。In regard to the BYOD system, students bring different devices to school, preparation is sufficient for ICT use.



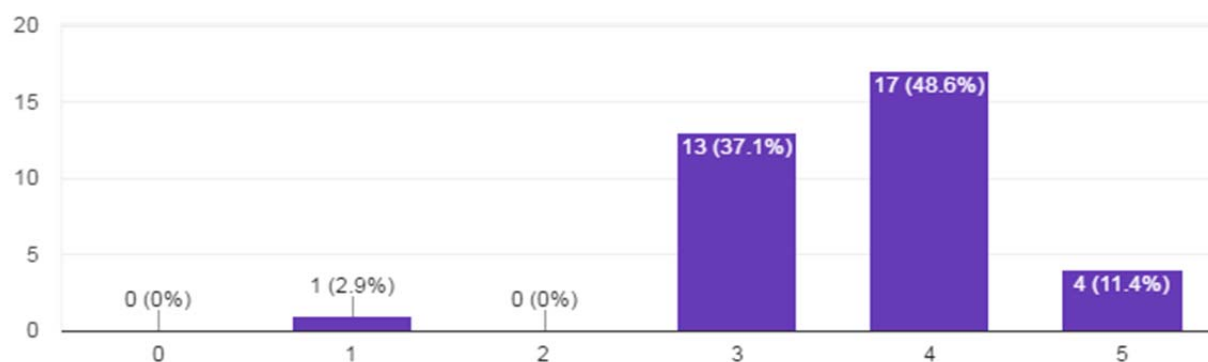
23) 学校は国内の進路先に関する情報についての豊富な情報を収集・公開・提供している。The school is collecting and making available a wealth of information related to domestic universities, colleges, vocational schools, etc.



24) 学校は、関西学院大学についての特に豊富な情報を収集・公開・提供している。As a member of the KG, the school is collecting and making available a particularly abundant amount of information related to KGU.



25) 学校は海外の進学先についての情報を豊富に収集・公開・提供している。In cooperation with the OIS counselor, the school is collecting and making available a wealth of information related to overseas universities, colleges, vocational schools, etc.



26) 学校は、本人の意向を尊重した十分な進路ガイダンスと個別の進路相談を行っている。The school carries out career counseling and guidance that respects the wishes of each individual student.

34 件の回答

